

**JUKI**

*Mind & Technology*

# 進化する技術と創造力 JUKI Smart Solutions

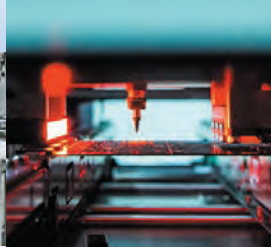
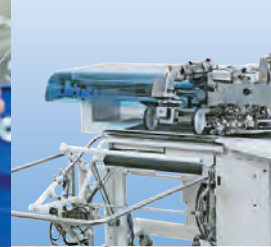
JUKIは最先端のものづくりで、人々の夢と暮らしを支えます

1938年の創業から今日まで、JUKIは世界の産業界に最高品質の製品とサービスを提供し、持続的な成長を実現してきました。JUKI 80年の軌跡を貫き、発展の原動力となったもの、それは「すべてはお客様のために」という思いです。

イノベーションを起こす製品開発へのチャレンジに加え、お客様工場ラインの生産性を飛躍的に高めるソリューションでお客様の価値創造に貢献する。世界180カ国にお客様を持つグローバル企業として、JUKIは、進化と変革のDNAを堅持しながら、グローバルでイノベティブな挑戦をこれからも続けてまいります。







# 事業領域

## CONTENTS

### JUKIとは

- JUKIの思い ..... 2
- 事業領域 ..... 4
- JUKI製品を使って作られるもの ..... 6
- 社長インタビュー ..... 8
- JUKIの企業価値創造 ..... 14

### JUKIの事業

#### 縫製機器&システム事業

- 工業用ミシン事業 ..... 16
- 家庭用ミシン事業 ..... 20

#### 産業機器&システム事業

- 産業装置事業 ..... 22
- グループ事業 ..... 26
- カスタマービジネス ..... 28

### JUKIの価値創造

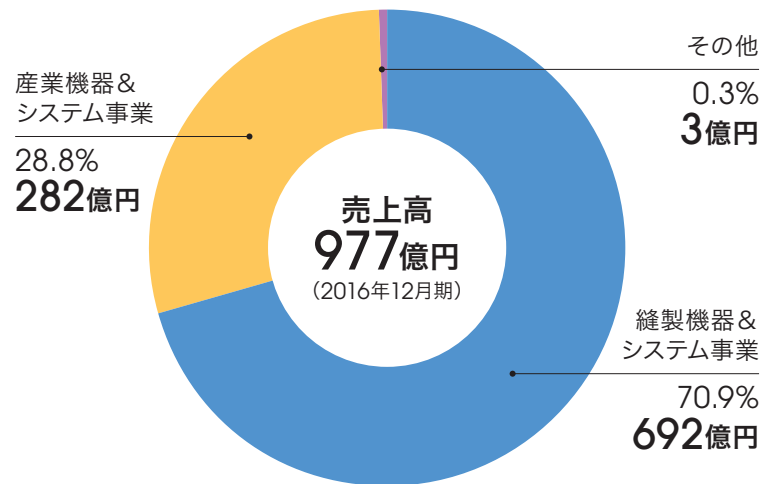
- 技術開発力 ..... 30
- 生産力 ..... 34
- ステークホルダーとともに ..... 38
- 環境に対する取り組み ..... 44
- コーポレート・ガバナンス ..... 48

### データセクション

- 財務データ ..... 50
- 沿革 ..... 54
- JUKIのグローバル拠点 ..... 56
- 会社概要および株式情報 ..... 58

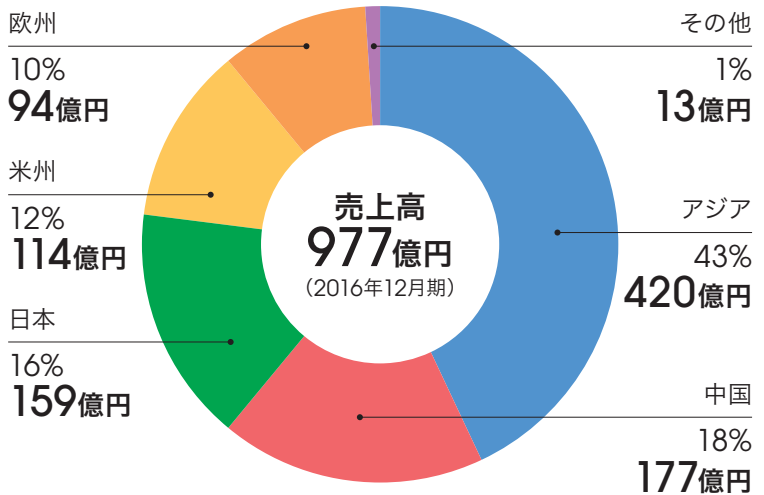
## 事業別売上高割合

JUKIは先進の技術・価値ある技術で世界のものづくりを支えています。



## 地域別売上高割合

世界約180カ国をカバーする販売・サービスネットワークで、世界中のお客様から強い支持をいただいています。





# 世界のお客様のイノベーションに貢献する JUKI Smart Solutions

## 縫製機器 & システム事業

2,000機種以上のマシンやシステムで、プロ用から趣味層まで、あらゆる“縫い”をサポートする事業です。

### 工業用マシン事業



縫製機器の業界を牽引する世界トップのリーディング事業

世界トップシェアの工業用マシンを中心に、自動化装置・ITシステムなどと組み合わせて、最適な縫製工場作りをお手伝いさせていただく事業です。生産性向上、省人化、脱技能化、働きやすさ、品質向上などに、ラインソリューションでお応えします。

### 家庭用マシン事業



Home Sewerの創造性を刺激する製品を提供する事業

工業用マシンの性能を取り入れた確かな製品力で、快適なソーイングライフをサポートする事業です。様々なワークショップを開催し、幅広い分野の趣味層を応援します。

## 産業機器 & システム事業

永年培った“ものづくり力”を生かし、製品やシステム、開発力・製造力で生産工場をサポートする事業です。

### 産業装置事業



基板製造工場をトータル・ソリューションでサポートする事業

電子基板生産における表面実装装置や印刷機、検査機などの関連商品を中心に、多様化する生産ニーズに生産性・効率化を追求したラインソリューションでお応えする事業です。

### カスタマービジネス



世界中で活用されるJUKI製品の修理サポートやパーツ供給を行う事業

世界180カ国で活用されている工業用マシンと産業装置の消耗品や補用パーツのご提供や、アフターサービスを通じて、より良い環境でご使用いただけるように、サポートする事業です。

## グループ事業

### グループ事業(受託開発・製造事業)



受託製造：電子系工具

「人・設備・方法・材料」の総合力で製造会社をサポートする事業

JUKIグループ各社が、主要製品を生産する中で培った開発・設計・生産・生産管理のノウハウを生かして、さまざまな製品の開発・製造・加工などを受託する事業です。

### スリープバスター



安全な走行をサポート

居眠り運転警告装置やそのデータを

活用し、安全・安心な走行の習慣化を促進するための事業です。過労運転防止や交通事故の低減に貢献しています。

### データエントリーシステム



データ入力のプロをサポート

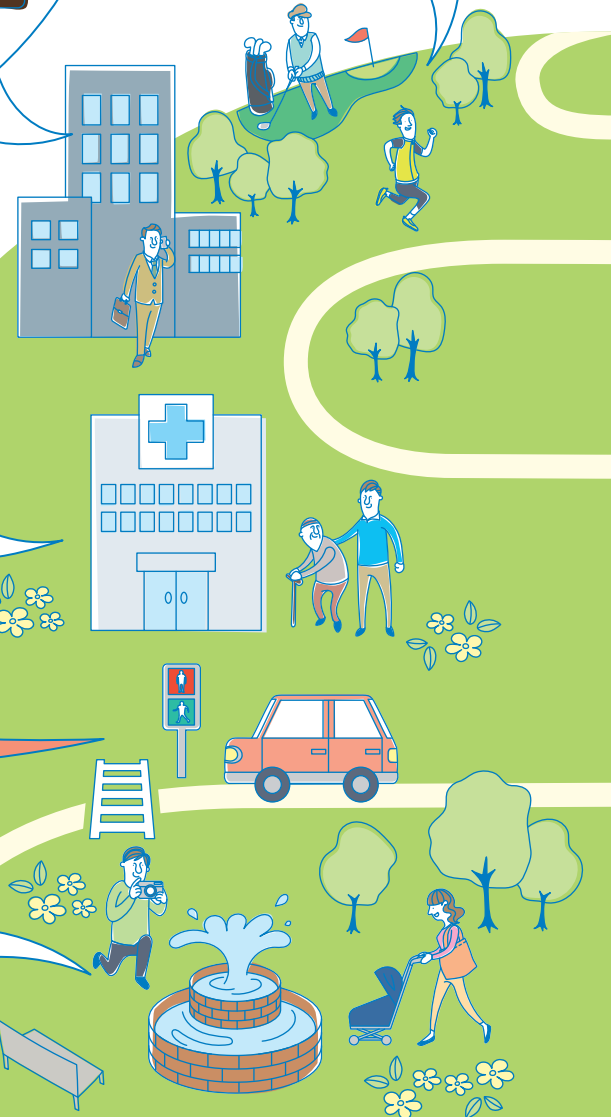
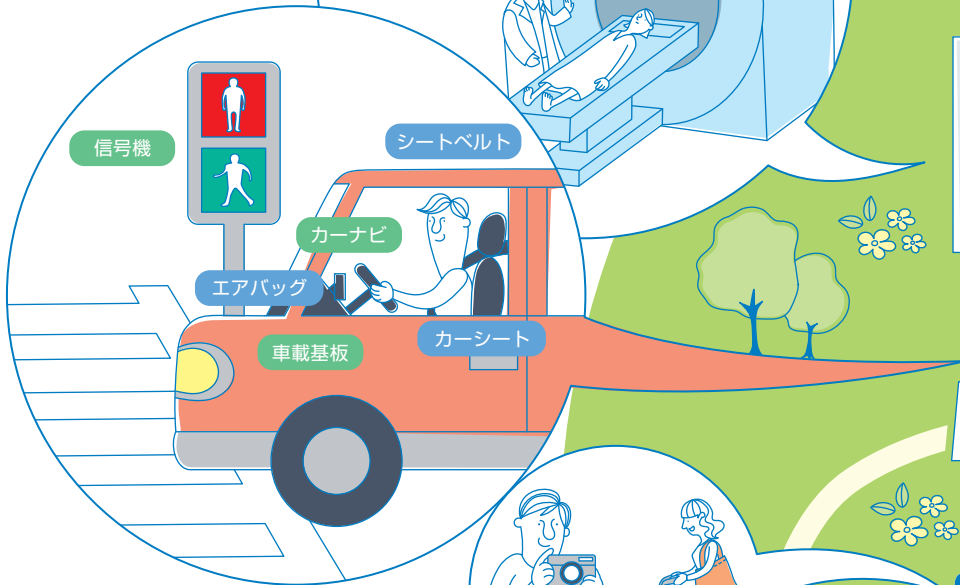
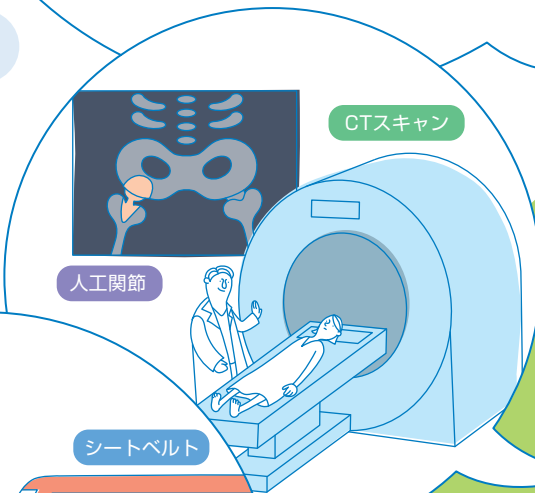
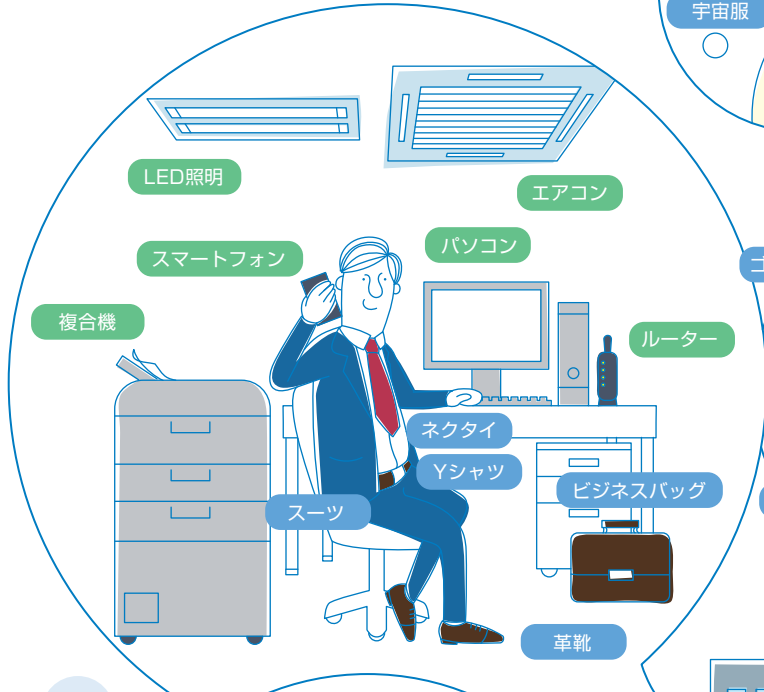
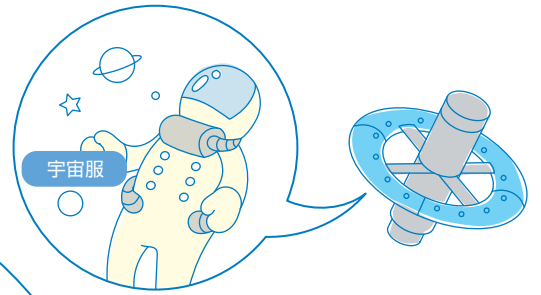
工夫された入力システムで、大量の

データを処理する情報処理産業をサポートする事業です。生命保険会社、銀行など大量の情報を処理する業界のニーズに対応しています。

# JUKI製品を使って作られるもの

## JUKIの製品を使って、こんな身近な“もの”が生まれています

- 工業用マシンを使って作られるもの
- 家庭用マシンを使って作られるもの
- 産業装置を使って作られるもの
- グループ事業が関わっているもの









JUKI株式会社  
代表取締役社長  
清原 晃



## 社長インタビュー

# グローバルでイノベティブな事業展開を通じて お客さまとJUKIの企業価値を拡大し、共に成長する

今年1月に始動した中期経営計画「Value up 2022」のもと、JUKIはいま企業価値向上の取り組みを本格化させています。JUKIの中長期ビジョンと成長戦略について、若手社員6名が清原社長にインタビューしました。



### ●インタビューー

## 若手社員の未来志向が 中期経営計画の方向性を決めた

— 2016年度の連結業績は前年度比で減収減益となりましたが経営環境と業績を清原社長はどのように考えていますか。

外部環境については、円高の急激な進行に加え、世界各地で地政学的リスクが高まったことが、JUKIが軸足を置く縫製産業や産業装置市場にマイナス要素として働きました。内部的には新製品を計画通りにリリースできなかったこと、また販売会社や代理店がソリューション営業への転換に時間を要していることが減収の主原因となりました。今後に向けてさまざまな課題が顕在化した1年でした。

— 一方で、在庫や有利子負債が減少するなど、財務面や経営体制面では確かな進展があったと思います。その成果についてお話しください。

2016年度は良い動きもたくさんありました。まず有利子負債ですが、前期末比で大幅な削減に成功しています。生産拠点における機動的な生産数量のコントロールやきめ細かい受発注管理、サプライチェーンマネジメントの運用によって在庫の圧縮に努めたことが奏功し、JUKIの財務体質は以前に増して確かなものとなりました。

第2は新たな製品・サービスの市場投入を通じて事業領域を拡大し、手応えが出てきたことです。産業装置市場での自動倉庫の拡販や縫製市場のノンアパレル分野拡大など、時代に即応する事業ポートフォリオの構築を進めました。グループ事業とパーツ事業もその取り組みが本格化し、縫製機器、産業装置に準じて着実な成長を続けています。

第3はロボットや自動化のプロジェクトが発足し、JUKIのイノベティブな提案が市場に受け入れられ、若手から中堅、ベテランの開発者が力を合わせて新しいことにチャレンジできる環境が整ってきました。

そして第4がナショナルスタッフ（海外現地社員）の活躍です。JUKIシンガポールを中心に、ナショナルスタッフが営業の前面に立ってボーダレスに活動し、ビジネスの可能性を拓いています。これらの成果は、JUKIの今後の成長に大きく寄与するものと信じています。

— 2017年度から「経営の枠組み」が変わりました。変更の内容と目的を改めて教えてください。

事業環境の変化に迅速かつ的確に対応し、持続的に高い収益を上げることができる事業構造を確立するため、今中期経営計画のスタートから経営の枠組みを変更しています。



2013年入社  
平山 元樹

2010年入社  
杵淵 直樹

2013年入社  
林下 祥子

代表取締役社長  
清原 晃

1つ目として、事業セグメントについては、従来の各事業を、「縫製機器&システム事業」と「産業機器&システム事業」に再編しました。組織を大きくくり化し、従来の機器単品での営業から、ラインソリューションで提供すると同時にシステムも提案する、という「姿勢」と「戦略」を社内外に明示するため、セグメント名称に「&システム」を付けました。

その上で、縫製機器&システム事業、産業機器&システム事業とも、製品、設備、人材等のリソースをシームレスに駆使して、お客様の省力化・省人化に役立つスマートソリューションを強気に展開していく体制としました。

2つ目として、コース別人事制度の一環として、再雇用者、契約社員、パートタイマーを対象とした、新しい専門社員制度をスタートさせました。女性を含めて、ベテラン、若手等の社員のワークライフバランス、いわば「仕事と生活の調和」の考え方



が多様となる中で、JUKIとしては、社員の職業意識や生活環境の違いをきちんと受止め、仕事における能力を最大限に発揮出来る環境を整えていきたいと考えています。

—— JUKIは現在、2017年度から2019年度の3カ年を対象期間とする中期経営計画「Value up 2022 フェーズI」に取り組んでいます。計画策定の背景と狙いを教えてください。

「Value up 2022」の策定に当たっては、検討段階から次世代を支える若手社員に参画してもらいました。6年先(2022年)のゴールをイメージし、そこから今後3年間の方針を決めるというアイデアも若手社員の中から出てきたものです。そして「21世紀を生き抜くグローバルでイノベティブ(革新的)なものづくり企業」を長期ビジョンとして、2022年と2019年の各ビジョンを定めました。まず、6年先の2022年のビジョンを「お客様とJUKIが製品・サービスを通じて企業価値の向上ができるものづくり企業」としました。その上で、「Value up 2022 フェーズI」、即ち2019年のビジョンは「お客様に選ばれる高品質な製品・サービスを提供しつづける企業」としました。2019年までの今中期経営計画はこのビジョンのもと、世界中のお客様に「感動と安心」をお届けすることにより、お客様もJUKIも、ともに成長することを目指しています。

—— それぞれのビジョンと「JUKIの行動指針」には、清原社長の熱い思いが込められているように感じます。

1938年の創立から今日まで、JUKIは世界を舞台に活躍





2011年入社  
杉山 智美

2009年入社  
丸山 剛志

2012年入社  
下田 かほり

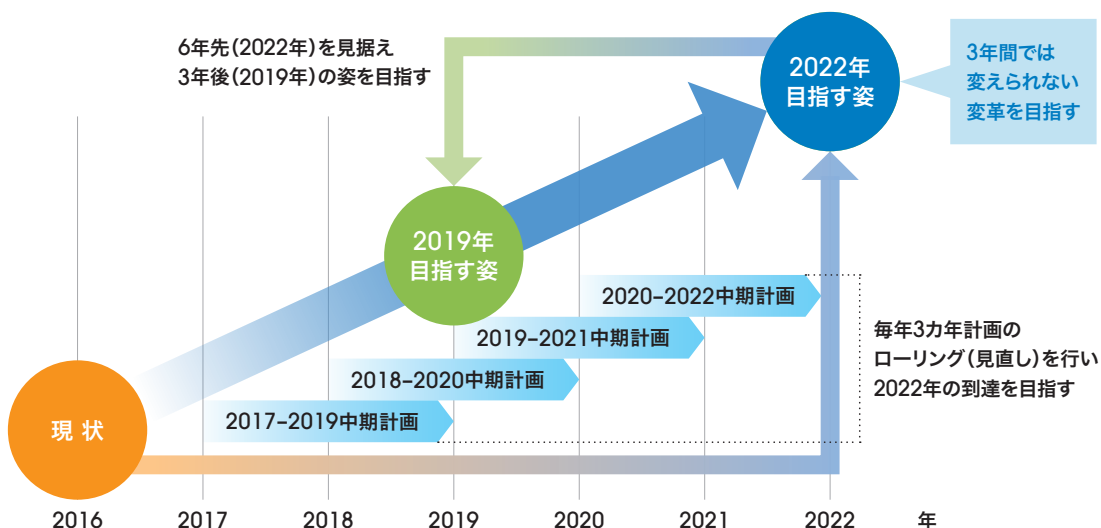
するグローバル企業として、またさまざまな領域でイノベーションを創出する技術開発型企業として発展を続けてきました。我々がグローバルであること、そしてかつての「自動糸切マシン」に代表される様にイノベティブであることは、JUKIの揺るぎないDNAであり、成長の原動力だと捉えています。

グローバルでイノベティブな経営姿勢を堅持するのは、すべてのステークホルダーにJUKI独自の価値を発信するためです。JUKIのビジネスは、お客様の生産性や品質の向上を目的としています。つまりお客様の価値向上に貢献することでJUKIは発展し続けることができるわけです。JUKIの果たすべきこうした役割と私たちの決意を「JUKI行動指針」として3つのコミットメントに託しました。

まず、お客様に向かった指針としては「世界中のお客様の生産ラインを止めない」としました。故障などで生産ラインを止めない製品やラインをご提供するために、優秀なQCDレベルを追求する、というコミットメントです。2つ目は、株主に向かった指針として「目標達成にこだわる(Never give up)」としました。事業計画とその結果について株主にコミットメントするという意味です。そして3つ目は、社員一人ひとりの仕事の基本としての指針として、「経営の5SとJUKIグループ社員行動規範“10カ条”の遵守」としました。社員一人ひとりが中長期ビジョンと中期経営計画の担い手として、ルールを守り、働き方改革を実践し、お客様や株主に貢献することをコミットメントする、という意味です。

## <長期ビジョン> 21世紀を生き抜くグローバルでイノベティブ(革新的)なものづくり企業

### 新中期計画の考え方





— JUKI行動指針をもとに策定した「Value up 2022 フェーズI」の5つの基本方針についてお聞かせ下さい。

まず、1番目は「ビジョンを実現するグローバルでイノベティブ(革新的)な人材の育成と活用」ですが、これを5つの基本方針の最初に掲げたのには、意味があります。JUKIがグローバルなものづくり企業として成長するためには、社員一人ひとり

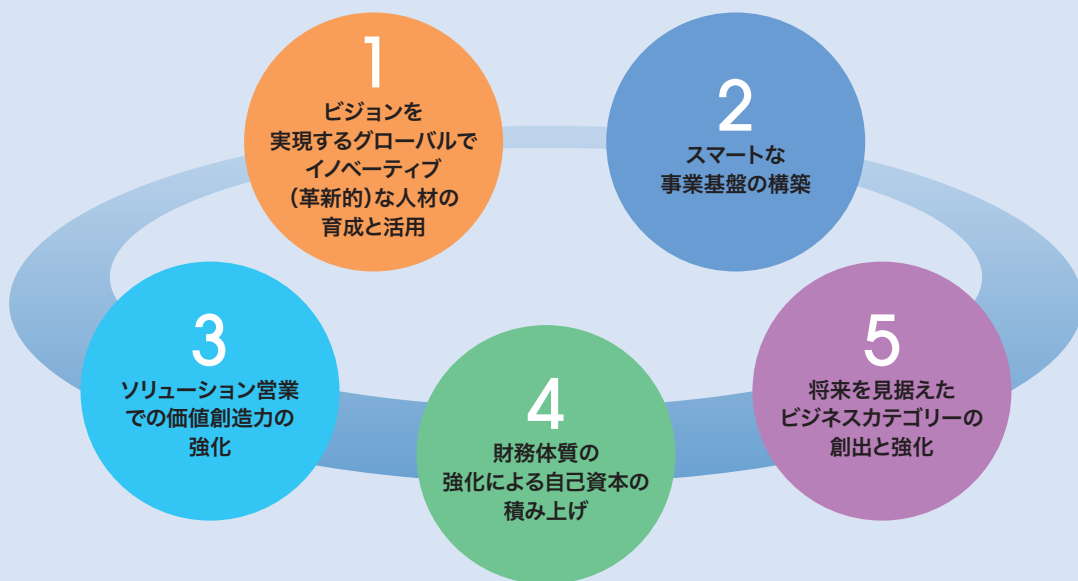
がグローバルな視点とイノベティブな感性を持たなければなりません。JUKIはお客様にスマートソリューションを提案しています。提案者である私たち自身が、業務の内容と手法をスマート化するのは当然のことです。より付加価値の大きい、生産性の高い業務の在り方を追求していくこと、それが真の「働き方改革」だと思います。マネジメントも社員の意識改革を支援するため、働きやすい職場環境の構築と人事制度などの整備に力を注いでいます。女性やシニア層、若手社員の積極登用を通じてダイバーシティを推進する一方、日本と海外現地法人の人材交流にも積極的に取り組んでいます。

次に2番目として「スマートな事業基盤の構築」ですが、ここは少し課題があります。サプライチェーンマネジメントの高度化を通じて工場全体の改革が必要だと感じています。JUKIは世界180カ国以上のお客様に製品・サービスを提供しています。お客様から信頼される企業であり続けるためには、生産性の向上や物流の改革といった諸施策を通じて納期の一層の短縮を図る必要があります。

3番目は「ソリューション営業での価値創造力の強化」です。JUKIは、これまで主に縫製工場のお客様に対して工業用

## Value up 2022 フェーズI (2017-2019)

### 5つの基本方針





マシンやパーツを中心に供給してきましたが、これに搬送装置やシステムを含めてJUKIのビジネスは完成するものです。工業用マシンのトップブランドとして培ってきた技術やノウハウに、生産ラインの稼働率向上、修繕情報の集積と活用できるシステムなど、最新の自動化やデジタル化技術を加え、お客様のスマートファクトリーの実現に結びつける取り組みを加速しなければなりません。さらに、AI、リモートコントロールなど、先進的なサービスを提供していく新たな視点も、今後は必要不可欠になって来ます。

4番目は「財務体質の強化による自己資本の積み上げ」です。イノベティブな技術とグローバルなネットワークを有し、この強味を活かして、お客様に役立つ製品やシステムを開発していくため、先行投資を積極的に進めたい。このためにも、今中期経営計画の間で、2019年には自己資本比率30%に積み上げて行く計画です。

最後の5番目は「将来を見据えたビジネスカテゴリーの創出と強化」です。縫製機器、産業装置の既存事業に加えて、第3の柱としてグループ事業に着手し、売上高は85億円前後で推移してきましたが、2017年度は100億円の大台達成が見えてきました。引き続きJUKIグループが持つ精密加工技術やグループ間のネットワークを活用することで日本を代表するような大手のお客様との取引も始まっており、更に新規

のお客様を開拓していきます。そしてカスタマービジネス事業が第4の柱です。グローバル企業の世界展開とパーツニーズの多様化・高度化に対応していきます。第5の柱としてはこの中期経営計画3カ年の中で、JUKIがグローバルでイノベティブな会社になる努力を通じて、社員の皆さんの中から創出されることを期待しています。

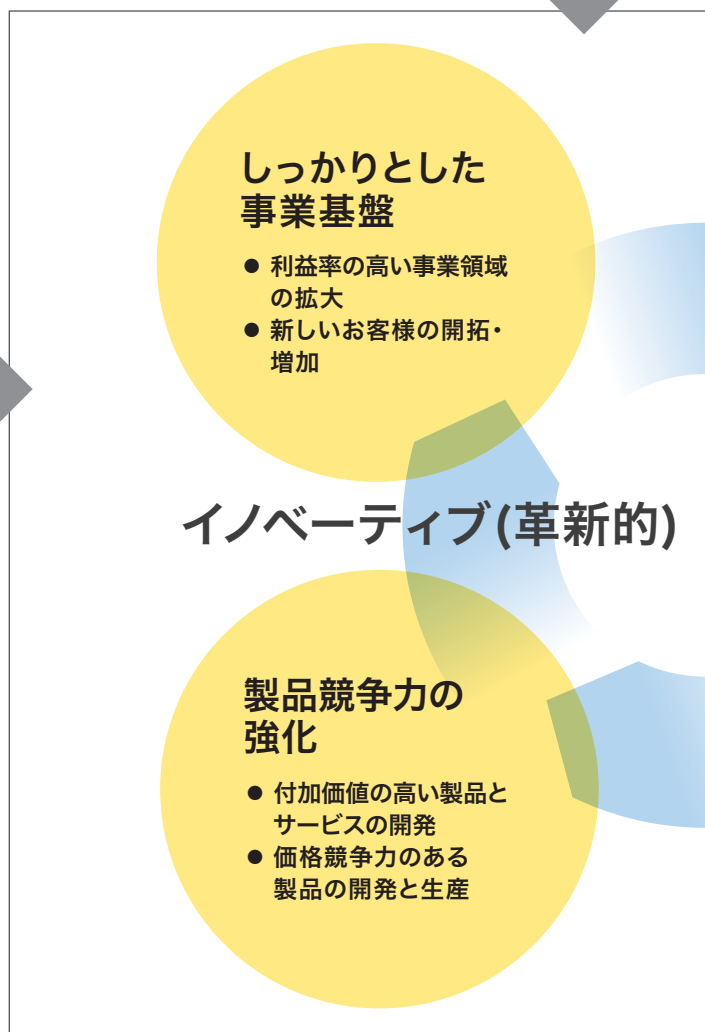
#### ——最後に、現在の環境認識とJUKIの成長の好循環に対するお考えをお聞かせ下さい。

IoTやAIが産業構造を変革する「技術革新の時代」が到来し、世界各地の縫製やエレクトロニクスの生産拠点で、スマート化に向けた設備投資が活性化しています。私たちはその動きをしっかりと捉え、ビジネスチャンスに変えていかなければなりません。営業、開発、製造、管理など、あらゆる部門の社員がグローバルな視点とイノベティブな感覚で時代の趨勢を捉え、それを製品やサービスに反映させることが必要です。世界では、設備投資がどんどん進み、世界中のお客様がJUKIを必要とする一方で、このニーズに十分に答えられていない市場もまだ沢山あります。今、私たちは一歩も立ち止まっていません。「Value up 2022 フェーズI」を着実に進め、世界中のお客様に「感動と安心」をお届けできる様、共に頑張りましょう。



# JUKIの企業価値創造フロー（ビジネスモデル）

JUKIは、3つの「経営の重点」により、お客様、お取引先、株主・投資家、社会、従業員といったステークホルダーに対し、企業価値創造に取り組んでいます。そして、JUKIの成長サイクルにより、イノベティブで活気のある企業を実現し、JUKIの企業価値創造の力をさらに高めていく取り組みを行っています。





### グループ事業

▶P.26  
国内製造グループ会社の  
高度な技術力を結集さ  
せ、新たな価値創造を目  
指す事業



### カスタマービジネス

▶P.28  
世界180カ国で活用され  
ているJUKI製品の修理  
サポートやパーツ供給を  
行う事業

## 収益力の向上

- スマートな事業基盤の構築
- 製品原価の低減
- 財務基盤も強化

## で活気のある企業

## 成長投資の拡大

- 先端開発のための積極投資
- 生産現場スマート化のための設備投資
- 人材育成のための投資

## ステークホルダーへの 価値創造

### お客様 ▶P.38

- 競争力向上への貢献
- トータルなソリューション提案
- グローバルなサポートなど



### お取引先 ▶P.40

- 共存共栄
- 切磋琢磨し、共に成長していける関係の構築など



### 株主・投資家 ▶P.41

- 財務体質の改善
- 株主価値向上
- 安定的な配当など



### 社会 ▶P.41

- 地域社会との交流
- 他国の文化を尊重し、現地の発展に貢献
- 環境問題への取り組みなど



### 従業員 ▶P.42

- 活気ある組織・風土
- 従業員満足の上など



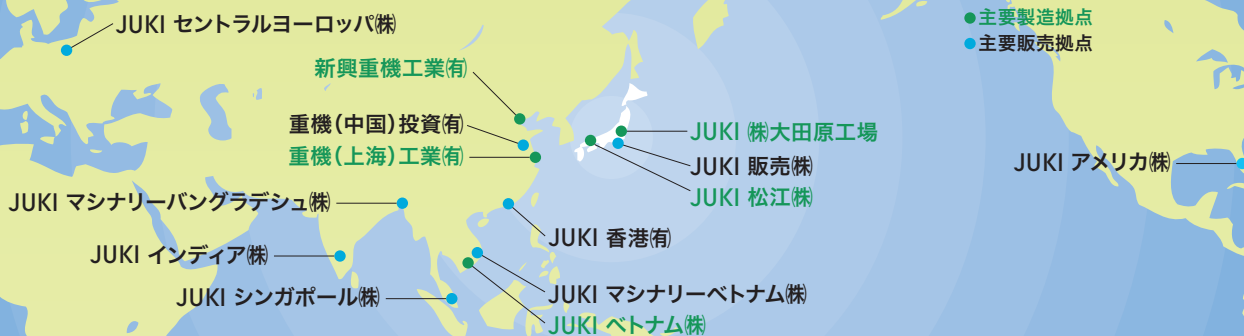


# INDUSTRIAL SEWING MACHINES BUSINESS



## 工業用ミシンの製造・販売拠点

- 主要製造拠点
- 主要販売拠点



# 180カ国のお客様をカバーするネットワークで、縫製産業を支える「世界シェアNo.1」事業

最先端トレンドを提案するメゾンブランドからカジュアルアパレル製品、スポーツ用品、カーシートなど、縫製が伴うあらゆる分野の製品の“縫い”を実現し、世界の縫製産業を幅広く支えるJUKIの工業用マシン。

直線縫い、ジグザグ縫い、ボタン付けなどそれぞれの専用縫いを追及したマシン、縫製アイテムや素材の変更などにアクティブに対応できるデジタルマシン、複数の工程をスイッチ一つで行う自動機マシンなど、幅広いラインナップで縫製ラインをワンブランドで揃えることができます。また、IoTを活用し、これらの機器をネットワークで繋ぐことにより、高次元の工場管理ができるシステムを構築しています。

JUKIは「Smart Solutions」のキーワードのもと、革新的かつ高精度な技術でお客様のご要望に応え、それらをラインソリューションとして提案し、お客様の課題を解決します。



## Customer Solutions

### 1. ワンブランドでのライン構築

JUKIの工業マシンのラインナップは約2,000機種にも上ります。その種類は縫製する素材・用途によって、布帛用、ニット用、ノンアパレル用、複数工程を1台で完了する自動機など多種多様です。縫製品質、脱技能、生産性を追求した幅広いラインナップで、お客様のニーズに沿った最大限のパフォーマンスを実現するラインソリューションをご提供します。



### 2. お客様個々のニーズに沿ったスマートファクトリーの構築

豊富な製品ラインナップに加え、手作業を補完するロボットの活用や自動化装置などを具現化しています。また、マシンをネットワークで繋ぐことで、各マシンの稼動状況をリアルタイムで確認でき、遠隔での生産管理も可能になります。JUKIは、お客様の「マス・カスタマイゼーション」にお応えし、最適な製品やシステムをラインソリューションとしてご提案することで、工場のスマートファクトリー化を実現します。

### 3. 安定した品質、サポートで安心を提供

JUKIには50年以上の活動実績に裏打ちされた豊富な経験をもとに、お客様工場が抱える諸問題についての的確にサポートするプロ集団を世界各地に配置。安定した品質や生産性が求められる縫製工場において、トラブル時の対応のみならず技術指導やセミナー、生産性向上のコンサルティングなど、最強のカスタマーサポートでお客様を支えます。



## Products



ダイレクトドライブ高速本縫自動糸切りソーイングシステム  
DDL-9000C



セミドライヘッド・シリンダーベッド型片面飾り偏平縫いマシン  
MF-7900D



1本針自動靴紐ループ付けマシン  
AB-1360



1本針CNCマシン  
AMS-251



# 工業用ミシン事業

## 先進技術でお客様の縫製ビジネスを進化させる

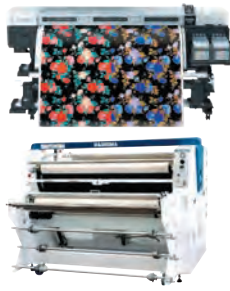
JUKIはお客様が抱える様々な課題に、製品のさらなる進化とシステム化、IoTの活用など、イノベティブな取り組みで最適な工場ライン作りをお手伝いさせていただく活動を進めています。

### お客様が抱える課題



### 縫製工程以外の製品もご提供

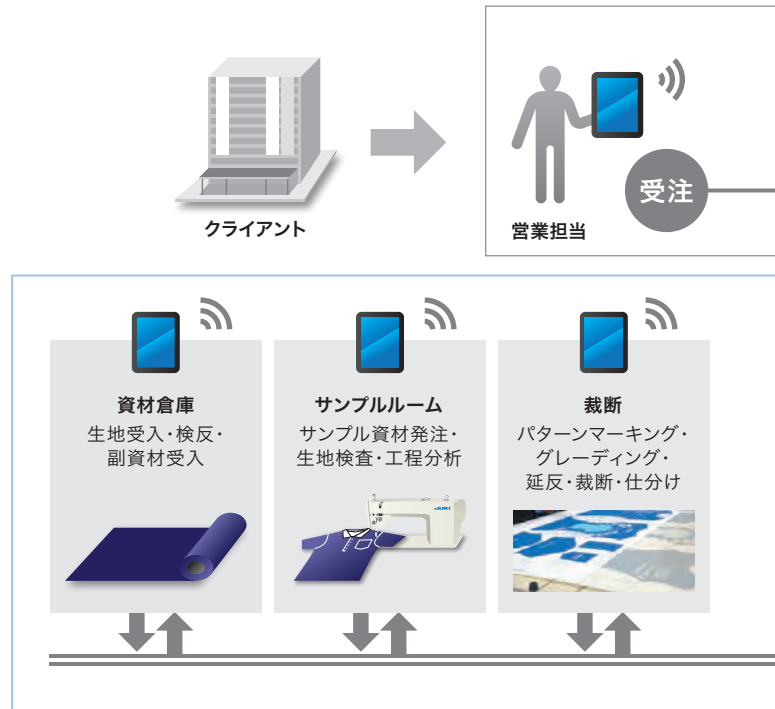
縫製の前工程で使用されるプリンター、転写機、自動裁断機、溶着機などをご提供します。プリント～裁断～縫製とつなぐことで、ワンストップ・ラインソリューションが可能になります。



### JUKIが提案するSmart Factory

縫製アイテム、素材の変更などにアクティブに対応できるデジタルミシンを中心に、複数の工程を1台で完結する数多くの自動機ミシンに加え、人の手作業を補完するロボットの活用などで、生産性向上、省人化、脱技能、働きやすさ、品質向上、省スペース化を実現します。また、IoTを活用し、生産工場内の機器をネットワークで繋ぐことにより、高次元の工場管理ができるシステムを製品化しています。JUKIは、デジタルソーイングシステムと自動機、生産管理システムをアレンジし、トータルプロデュースさせていただくことで、お客様個々のニーズに沿ったSmart Factoryを実現します。

## JUKIが提案する縫製工場のSmart Factory



### デジタルミシン

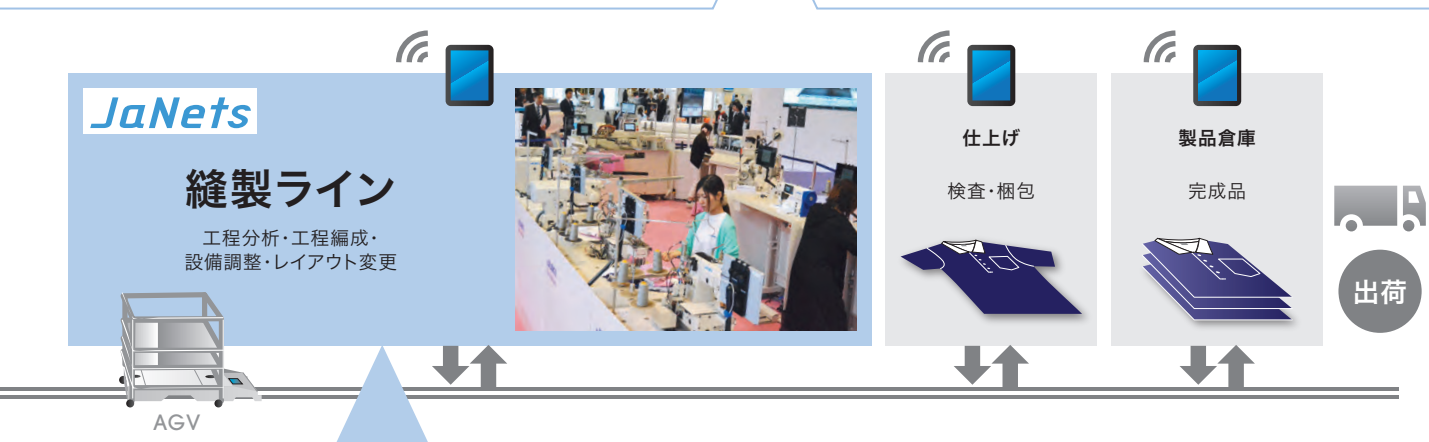
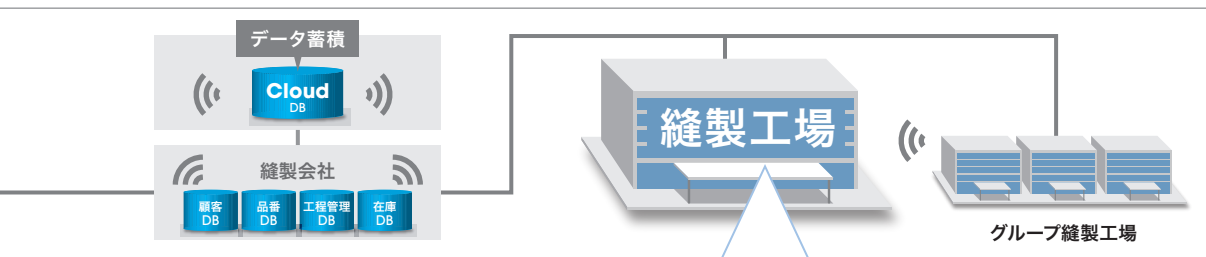
“縫い目”の調整機能をデジタル化し、数値で記憶することができるミシン。調整後のデータは専用アプリを入れたタブレットに記憶させることができ、別のミシンへのデータ転送も可能です。これにより従来、勘や経験に頼っていた縫い調整が短時間で行え、縫いデータの共有・管理が容易になり、グローバルでの品質の安定化が図れます。



### 自動機

人の手によるハンドリング縫製、ハサミでのカット作業、生地への折り曲げ、いせ込みなど、複数工程をフルオート化したミシンを数多く品揃えています。生地をセットすると記憶させた縫いパターン通りに自動縫製するミシンやカット・縫い・折り曲げを自動で行うミシンなど、生産性の向上や脱技能化が図れます。





### ロボット縫製

ロボットアームにミシンを取り付け、自動車のインストルメントパネルにデザインステッチを3Dで縫製するなど、ロボットを用いた縫製技術を開発しています。縫製物の重量が重い・縫製面積が広い・立体的であるといった場合、オペレータにとっては重労働な上、熟練の縫製技術が必要です。JUKIはイノベティブな技術で個々のお客様にお応えします。



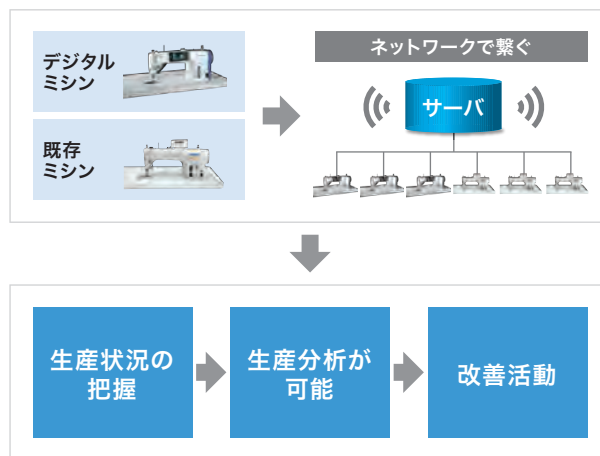
### 自動化装置 (自動搬送装置AGV)

人に頼っていた縫製工場内の搬送作業を自動化する装置です。裁断後のパーツ(生地)や仕掛り中の縫製物、完成品など、工程間を自動搬送します。生産管理システムと連携させることにより、「必要な時」「必要な場所」に「必要な数だけ」届ける仕組みも構築できます。



### 縫製管理システムソフト JaNets

ミシンをネットワークに繋ぐことで、各ミシンの稼働情報などの設備データがリアルタイムで見える化され、そのデータを分析することで改善活動に繋げることができます。さらにデジタルミシンを使うと、システムとミシン間で双方向通信ができるようになり、段取り換えの際に縫いの制御情報をミシンにダウンロードすることもできます。今後は予兆管理やトレーサビリティなど“情報”を活用したサポートコンテンツを増やしていく計画です。



# HOUSEHOLD SEWING MACHINES BUSINESS



## 創造性をサポートするミシンで 趣味力の高いお客様 (Home Sewer) と新たな楽しみの創造

家庭用ミシンの総合メーカーとして、家庭用ミシン、職業用ミシン、小型ロックミシン、キルト用ロングアームミシンの全てにおいて、工業用ミシンで培った高精度な技術を取り入れた製品を開発・販売しています。豊富な品揃えと高品質な縫いや使いやすい操作性は、ビギナーからプロの方まで幅広いお客様にご支持をいただいています。これからも本格的なソーイングが楽しめるよう、お客様の視点に立った事業展開を図ります。



### Products



フルサイズ高機能  
コンピュータミシン  
HZL-EX7



2本針4本糸差動送り付き  
オーバーロックミシン  
MO-114D



職業用直線ミシン  
SL-300EX



家庭用キルト専用  
ロングアームミシン  
TL-2200QVP



## Customer Solutions

### 1. 確かな製品・技術

ミシンの本質である“縫い目”にこだわり、ワンランク上の“縫い”をご提供します。厚物や段部乗り越え縫いはもちろん、細かい針基線変更や縫製途中でも縫い目の長さや振り幅の調整も簡単かつスムーズに行えます。縫い目をデザインした「キルト」作品も美しく仕上がります。



### 2. ミシンの楽しさ、使い方をワークショップで展開

ミシンの操作方法や様々な機能の使い方、作品づくりの楽しさを知っていただくために、世界各地で手提げバッグや小物作り、キルト制作のワークショップを開催・サポートしています。JUKIならではの便利な機能を活用し、様々な趣味層の人にマッチさせたマシンソーイングを広げています。



### 3. 世界を網羅する販売・技術サポート

世界に張り巡らせた工業用ミシンの販売・技術ネットワークを活用してお客様をサポートしています。製品の使い方やメンテナンス方法に加え、ミシンの機構や美しい縫い目の作り方など、様々な講習会を開催し「安心」を提供しています。



## TOPICS

### “andMade”をミシンでサポート

株式会社古館プロジェクトがプロデュースする“andMade.kitasando”を、工業用・家庭用ミシンでサポートしています。JUKIの職業用ミシンが、クリエイターの方から、高い評価を得ている中、当施設が、クリエイティブの世界で活躍する人材を輩出・支援するというコンセプトに共鳴し、職業用ミシンを中心に、服作りのプロの現場で活用されている本格的な各種ミシンでサポートしています。

#### \*andMade.kitasando とは

2017年4月に東京・北参道にオープンした服創りに特化した国内最大規模の会員制コワーキングスペース。JUKIのミシンの他に、テキスタイルプリンター、レーザーカッター、UVプリンター、カッティングプロッター、3Dプリンターなどの機材を取り揃えている。



4月28日に行われた記者発表。古館伊知郎さんの代名詞でもある弾丸トークで“andMade”のコンセプトや設備などを約20分弱で紹介。  
(後ろの棚のミシンは全てJUKI)

タレント・デザイナーの篠原ともえさんが、自らデザインし、JUKIのミシンで制作したワンピースとお揃いのリボン制作を実演。

### ソーイング作家さんとのコラボワークショップ

ミシンソーイングの趣味層を洋裁、コスプレ、ドール衣装、小物作り、アート、ニット、キルトなどに分けて、それぞれのカテゴリーの専門作家さんと共同で、ニーズに沿った内容のワークショップを開催しています。

JUKIは開催会場とミシンを提供させていただき、参加される方のミシン操作レベルに応じたサポートを行います。

2017年上期は、洋服、コスプレ、ドール衣装、小物作り、キルトのそれぞれの作家さんと組んだワークショップを開催し、多くの方にご参加いただきました。



ドール衣装作家のモモリータ先生(小森桃子さん)と共同で開催したブライス人形用のセーラーワンピースワークショップ。(2017年4月開催)

Pattern Label ユーカ先生と共同で開催した目からウロコのソーイングレッスン「縫い代付き型紙を使ってポケットティッシュカバーを作ろう」。(2017年5月開催)



# ELECTRONIC ASSEMBLY SYSTEMS BUSINESS



## 産業装置の製造・販売拠点

- 主要製造拠点
- 主要販売拠点

● JUKI オートメーションシステムズGMBH

● 東京重機国際貿易(上海)有

● JUKI インディア株  
SMT本部

● JUKI SMT アジア株

● JUKI 産機テクノロジー株

● JUKI オートメーションシステムズ株

● JUKI オートメーションシステムズINC



# 基板生産工場を トータルソリューションでサポート

私たちの生活を便利に豊かにしてくれる電化・電子製品や、その製品を生産するための産業用ロボットや装置まで、あらゆる製品に組み込まれ、その製品の頭脳の役割を担うのが「電子回路基板」です。

JUKIは、基板生産装置の総合メーカーとして、市場ニーズを先取りした製品開発を実現する先行研究や、各種試験、手厚い修理サービスなどを通じ、お客様をサポートしています。

JUKIが目指すのは、製品そのものだけでなく、お客様の製造ライン全体、またフロア全体での生産性を向上させるための“トータルソリューション”の提供です。お客様ニーズを捉えた基板生産装置のラインナップや、装置と連動して電子部品を収納・供給する自動倉庫、それらを統合して生産管理を行うシステムなどにより、日進月歩で進化する電子業界のお客様にお応えします。



## Customer Solutions

### 1. 変種変量生産に対応した実装フルラインナップ製品

生産品目や生産量の変化に応じて、別のタイプの装置への入れ替えやマウンタヘッドを交換することなく、最適な実装ラインを構築できるマウンタを中心に、不良基板の流出を防ぐ高速3D検査機など、印刷機・マウンタ・検査機のフルラインナップで、多様な生産変化にスマートに対応します。



### 2. フロア全体の管理・生産性向上をサポート

部品受け入れから、完成品出庫まで、フロア全体の改善や生産性向上のサポートをさせていただくのがJUKIのトータルソリューションです。実装工程後の手作業の自動化、電子部品の自動保管管理製品、生産計画の達成に貢献するシステムソフトなど、進化するソリューションでフロア全体での生産性の向上をサポートします。



電子部品を保管管理する自動倉庫

### 3. 手厚いビフォー・アフターのサービス

定期的なメンテナンス・部品交換といった保守点検に加え、トラブルが発生した場合は365日・24時間以内に対応することを目標に、迅速な復旧作業にあたります。製品購入前にもお客様の生産要求に応じた製造ラインの提案や基板への搭載試験、講習会などを実施し、ビフォー・アフターのサービスで、世界中のお客様に安心をお届けします。



## Products



高速スマートモジュラーマウンタ  
RS-1



3D基板外観検査機 (AOI)  
RV-2-3D



マルチタスクプラットフォーム  
JM-20



インテリジェントストレージ  
管理システム ISM-3600

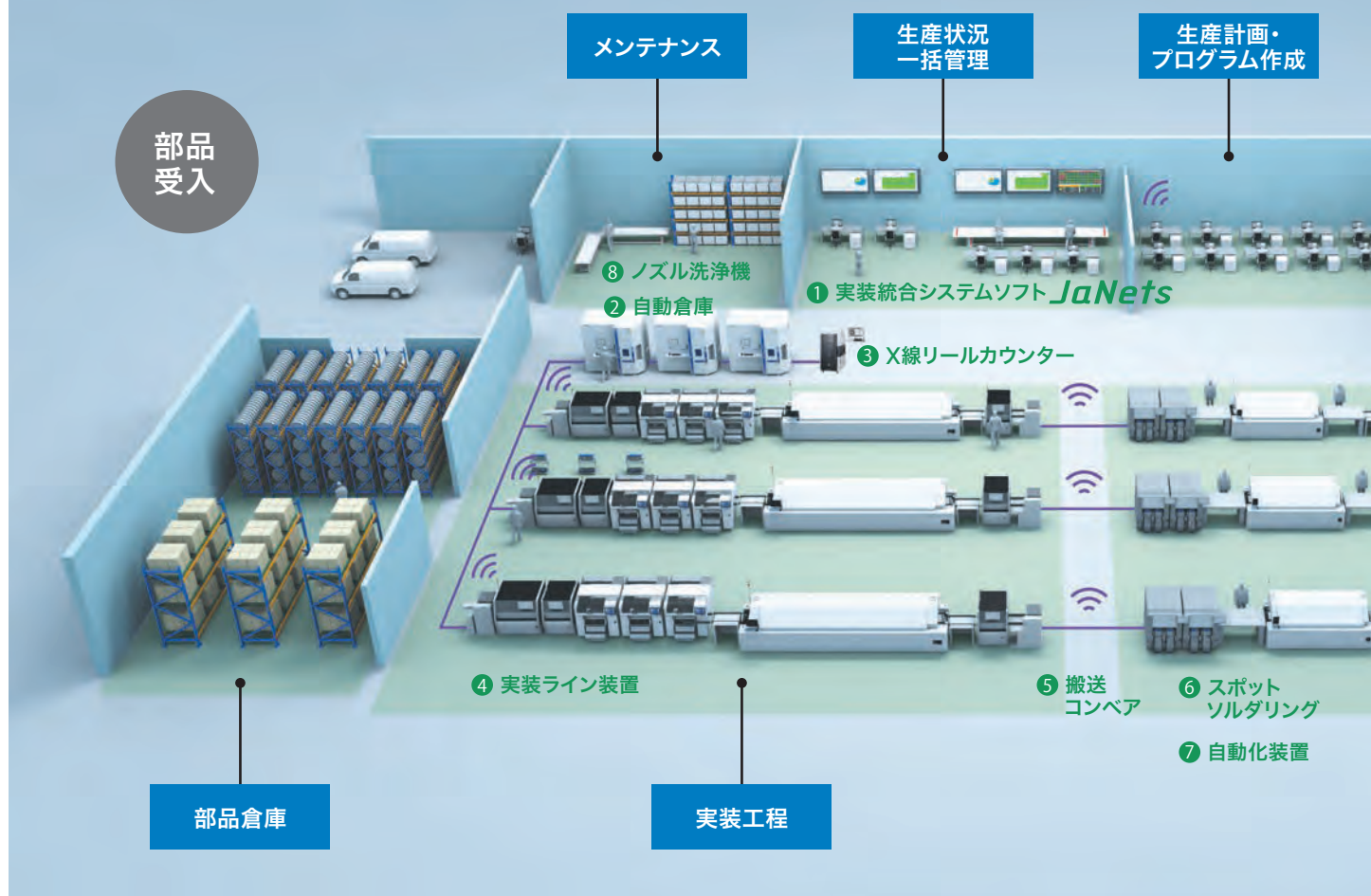


## 産業装置事業

# 基板製造工場の設備と工場全体がつながる JUKIのトータルソリューション

## 生産フローに沿ったJUKIのSmart Factory提案

### 基板製造工場



#### 実装ライン装置 ④

JUKI独自の機構を搭載した印刷機、検査機、チップマウンタ、汎用マウンタをフルラインナップしています(リフロー除く)。搭載する電子部品の高さに応じてヘッドの部品認識センサーの高さを可変させ、ヘッド交換を不要にしたマウンタなど、幅広いラインナップで、変種変量生産をはじめ、実装ラインの生産性向上に貢献します。



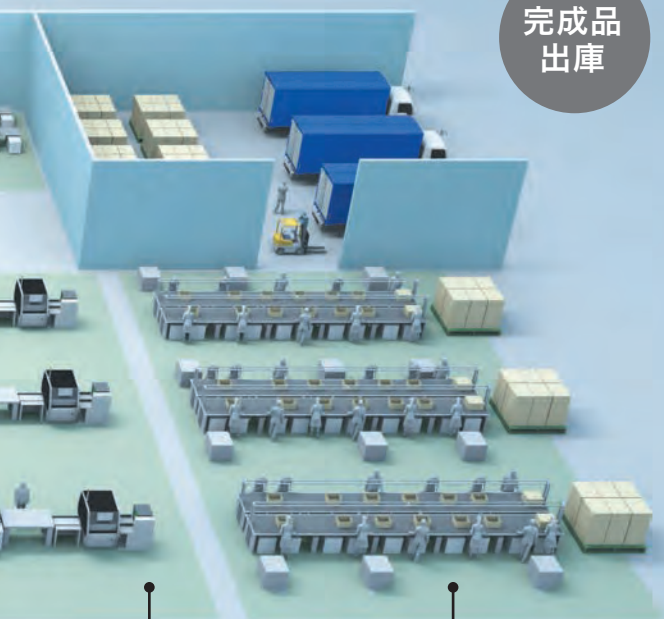
#### 自動化装置 ⑦

実装ラインでの自動搭載が難しく、後工程にて人の作業で手挿入を行っていた大型電子部品や重量部品、搭載の難易度が高い部品を自動で挿入・搭載する装置です。



## JUKIのスマートソリューションが 関連する領域

完成品  
出庫



後工程

組立・梱包工程

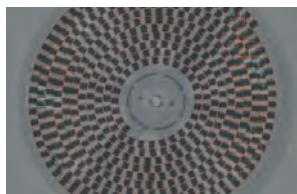
### 自動倉庫 ②

基板製造工場で使用される多品種で大量の電子部品（テープリール等）を自動で保管管理する装置です。温湿度管理にも優れ、電子部品を安全に保管する上、実装統合システムJaNetsにより、生産状況に応じて部品を自動出庫するなど、部品の供給管理と基板生産の効率化に貢献します。



### X線リールカウンター ③

テープリール内の電子部品数をX線検査方式で計数する装置です。高速、高精度で正確なカウントができ、電子部品の在庫管理を容易にします。



リール撮像イメージ

### 搬送コンベア ⑤

生産ラインへの基板供給・取出しを行うローダー・アンローダーや、基板を次工程へ順次送り出す各種コンベアなど、生産性を向上する装置です。



### スポットソルダリング ⑥

後工程における自動化装置で挿入・搭載された電子部品を、部分的に自動ではんだ付けする装置です。



スポットソルダリングイメージ

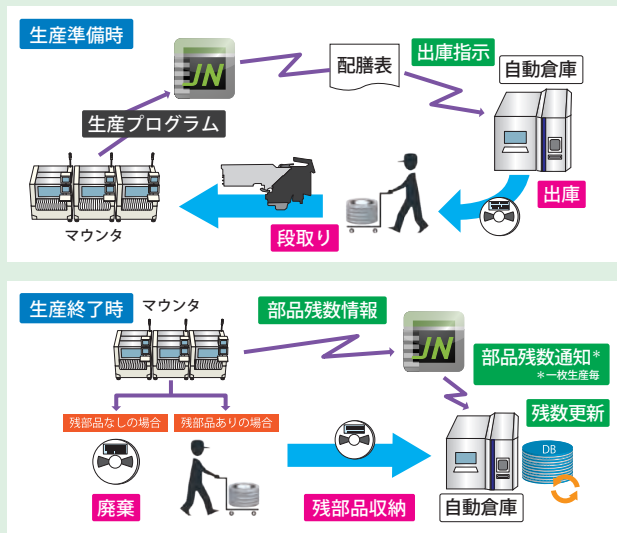
### ノズル洗浄機 ⑧

パーツを吸着し搭載するマウンタの「ノズル」を洗浄する装置です。ノズルコンディションを良好に保つ事で実装品質と生産性を向上します。



### 実装統合システムソフト *JaNets* ①

マウンタや自動倉庫、他装置をつなげた実装ラインの生産管理はもとより、お客様の基幹システムとの連携により、フロア全体での生産性の向上を実現します。





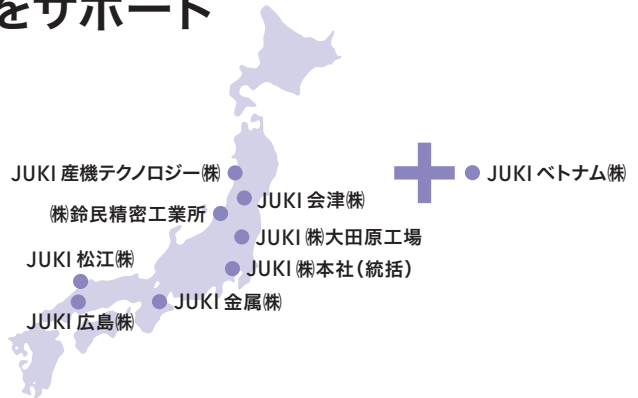
# GROUP BUSINESS



## 受託開発・製造事業

### 「技能者」+「開発・製造装置」+「開発・生産ノウハウ」+「材料」の4つの総合力で製造業のお客様をサポート

製造会社のものでづくり力を結集させた事業です。主要製品である工業用・家庭用マシン、マウンタの設計・開発から部品製造、製品組み立てを行う中で育まれた開発力や精密加工、プレス・板金加工、鋳鉄鋳物、精密鋳造、金型製造など、幅広く高度なものでづくり力を有しています。JUKIのグループ事業はそれらのものでづくり技術を深化・組み合わせし、お客様が望まれる部品やユニット製品として具現化する事業です。



## スリープバスター ドライバーの安全な走行をサポート



スリープバスターは、過労運転防止や交通事故の低減に貢献する装置です。

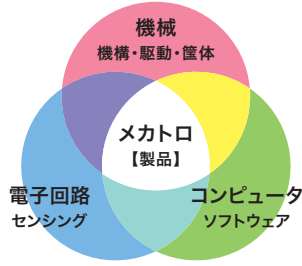
運転座席にセンサーパッドを装着し、パッドに内蔵されたセンサーが、運転者の上体に発生する生体信号を常時とらえ解析。運転者の疲労度合いを判定し、集中力の低下や体調の急変(入眠予兆信号等)を画面と音で警告します。さらに、このデータを「ヒュータコ」という専用ソフトを用いてパソコンに取り込むことで、運行時間内の運転手の緊張・集中・覚醒水準の低下や疲労度合いを分析できます。



# Customer Solutions

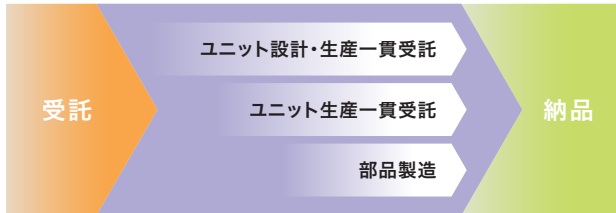
## 1. 機器制御の開発・設計が可能

マウンタの開発・設計で培った技術を基に、機器制御の開発・設計が可能です。機械工学・電子工学・ソフトウェアの分野から多彩な人材が集まり、柔軟な発想力で製品を生み出します。



## 2. JUKIとJUKIグループのものづくり力 (開発・製造力) が結集

全拠点がISO9001を取得。50年以上のものづくりの歴史とともに、科学的な分析手法を取り入れ、徹底的な高効率化とムダの排除を実践。付加価値の高い生産、良質なものづくり、高品質な製品をお届けします。



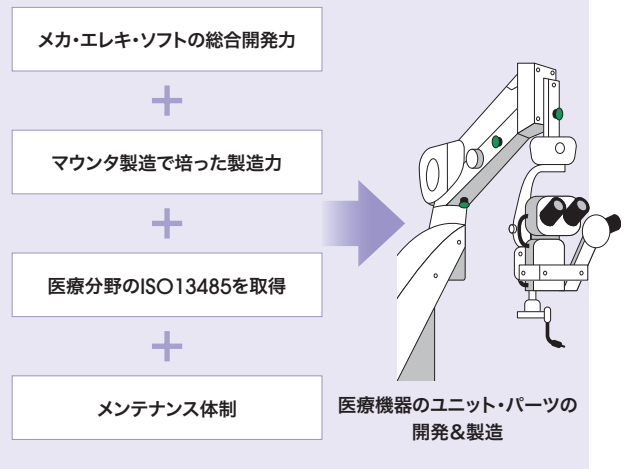
## 3. 「人・設備・方法・材料」をフル活用して、付加価値の高い製品を提供 (材料→加工→組付け→完成品)

各種国家資格を取得した技能者がMC・鍛造・研磨・塗装など多種多様な技術を駆使して、お客様のニーズに適したマルチセレクト製造で製品を完成させます。資材調達・製造・組立まで、すべての工程をワンストップで提供します。

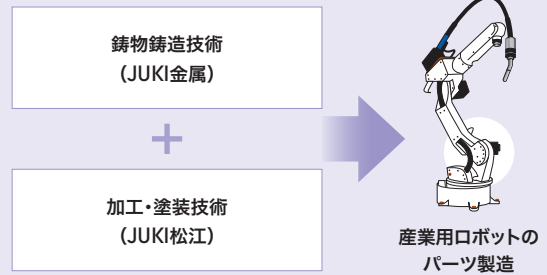


## 各拠点の開発・製造技術を融合した受託製品

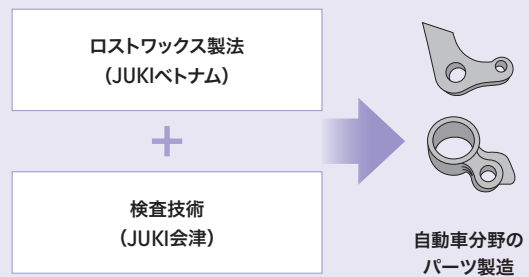
- 永年育んだ開発力～製造力を生かして、製品開発・製造を受託 (JUKI産機テクノロジー)



- 2社の技術力を融合してパーツ製造を受託



- 2社の連携でコストパフォーマンスに優れたパーツ製造を受託



## データエントリーシステム 情報処理に特化したJUKI独自のシステム



データエントリーシステムは、数値や文字などの大量のデータをスピーディに入力できるように工夫された装置です。

生命保険会社、銀行など大量の情報を処理する業界の「機密情報や個人情報の保護」、「OCR処理と連携したイメージエントリーの効率向上」、「高速通信インフラを利用したデリバリーレス」など、情報処理産業のニーズに対応するため、処理機能強化や人的ミスを軽減する装置の開発を進めています。

JUKIの事業

# CUSTOMER BUSINESS



## 最強のカスタマーサポートとパーツ供給で世界中のお客様に安心をお届け

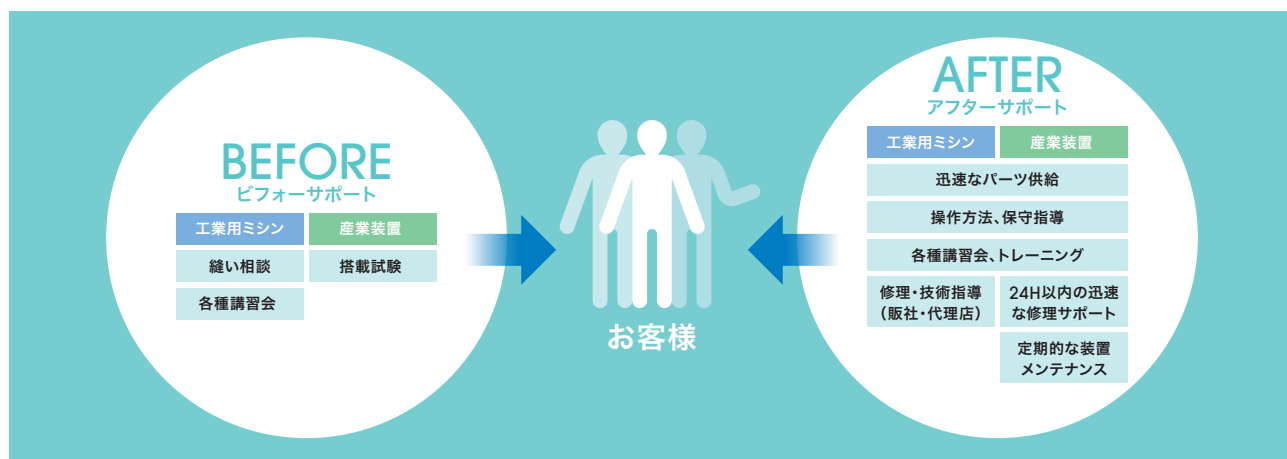
JUKIの主力事業である工業用ミシンと産業装置のお客様のニーズを肌で感じて、製品をご購入いただいたお客様に、より良い環境でご使用いただけるように、消耗品、補用パーツのご提供やアフターサービスを行う事業です。

工業用ミシンにおいては、約10万種類のパーツを在庫し、お客様の需要にタイムリーにお届けする体制を整えています。また、品質向上や生産をストップさせないための予備パーツのご提案などを積極的に行っています。

産業装置においては、交換推奨パーツのご提案やオーバーホールなどのメンテナンスの提案活動を行い、製品を長くご愛用いただくための、未然保守活動を行っています。



工業用ミシンパーツセンター(大田原工場)





# Customer Solutions

## 1. 世界中のお客様にパーツを迅速にお届けする仕組み

工業用マシン、産業装置ともにお客様工場で使われる生産財のため、製品の不稼動時間を極力少なくする必要があります。何らかの原因で機械のトラブルが発生し、その修理のためにパーツ一つが欠けても、工場のラインが止まり、お客様の生産に影響を及ぼしてしまいます。

JUKIでは、長期間ご愛用いただけるように、パーツの在庫体制を整えるとともに、全世界の各販売会社で所有している部品在庫で世界のお客様に迅速にパーツをお届けしています。



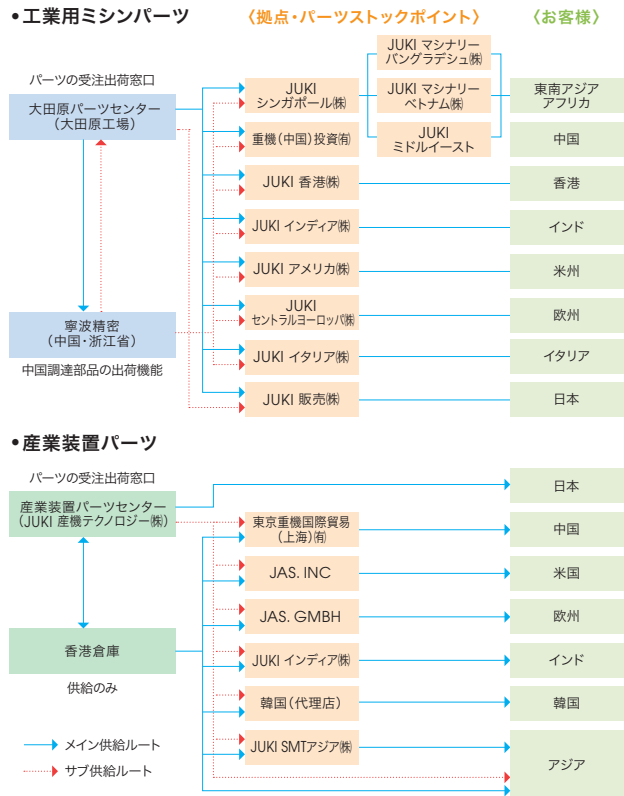
JUKI アメリカ株のパーツ自動倉庫

## 2. 安心・最強のカスタマーサポート

停止したお客様の製造ラインをスピーディに復旧させるために、JUKIでは修理技術者のレベル調査を定期的に行い、全世界に張り巡らせた拠点にスタッフを配置しています。

また、技術面でのサポートに加え、専門知識を生かした各種トレーニングやセミナーを開催し、ソフト面でもお客様をサポートしています。

## パーツ供給の仕組み



JUKIの事業

## 産業装置の未然保守活動

製品を長くご愛用いただくために、年数が経過した製品の状態を把握し、最良の状態に戻すためのメンテナンス活動を実施しています。設備寿命を延長させ、搭載精度の品質を高め安定性を確保することができます。



# TOPICS

## 工業用マシンパーツのWEBサイトをリニューアル

2016年7月、工業用マシンのWEBパーツサイトを全面リニューアルしました。

新サイトの閲覧には、会員登録が必要ですが、製品のパーツ品番検索が視覚的に容易にできるため、必要な部品をスピーディに探せます。また、代理店の技術担当や縫製工場の保守担当の方に有益なJUKI工業用マシンの新製品情報や技術情報などをご紹介します。







## 「お客様第一主義」を実践する 高度な技術開発力。



お客様が求められる生産性向上、省人化、脱技能化、働きやすさ、品質向上、省スペース化などの課題にお応えするため、製品単体の開発のみならず、自動機・自動化システムに取り組んでいるのがJUKIの技術開発です。リーディングカンパニーとして、多くの「世界初」の機構を生み出してきています。

最新の技術の追求と合わせて開発のベースになるのは、製品の使いやすさや、省電力などの環境配慮です。1日中稼働するからこそ、ストレスなく使っていただける製品を作りたい、JUKIのミシンは工場の管理者のみならず、現場の使用者からも圧倒的な支持を得ています。

また、海外のお客様のニーズにスピーディに対応するため、中国、ベトナム、アメリカ、ポーランドにも開発拠点を設置し、ハイレベルな要求にきめ細かく対応しています。

# TECHNOLOGY & DEVELOPMENT

### 国内開発拠点



### 海外開発拠点



## JUKIの技術開発

JUKI製品の多くは生産財のため、世界中のどんな環境下でも安定して稼動することが求められています。

JUKIでは、強度や安全性、耐久性などに問題が発生しないように、3次元CADや最新の試験設備を使い、力、熱、振動、電磁放射など、いろいろな物理現象を仮想的に発生させて評価する実験を繰り返しています。



電子顕微鏡での材料研究



EPMAでの元素分析



ビッカース硬度計での硬さ試験



静電試験器を使ったテスト



加振機を活用しての振動試験



製品梱包落下試験



チップマウンタの耐久試験



工業用ミシン縫いテスト



半無響室での騒音評価

## TOPICS

### texprocess award受賞

DDL-9000Cが、縫製条件等を保存できる世界初のミシンとして、texprocess Innovation awardを受賞しました。このミシンは糸張力と縫い目長さをタッチパネルやスマホ上のアプリケーションで保存できるデジタルミシンです。2017年5月、ドイツで開催されたtexprocess展にて、ドイツ経済エネルギー大臣より縫製機器開発の責任者である日塔隆さんに授与されました。



中央がJUKIの日塔 隆さん

受賞したDDL-9000C

### 「技術系年間特別表彰」発表会を開催

「年間特別表彰発表会」を開催し、2016年度に受賞した開発関係の8テーマを受賞者が発表しました。発表内容には成果に加え、失敗や苦勞を乗り越えた教訓を盛り込み、技術者に水平展開できるように工夫しています。



発表会の様子



# 技術開発力

## JUKIのコアテクノロジー

JUKIのコア技術は、品質を安定させる、使いやすさを追求する、作業性を向上させる、消費電力を削減するなど、製品に直結した技術の数々です。多様化・高度化する市場ニーズを的確にとらえ、世界中のお客様のご要望にお応えする魅力あふれる機能を生み出しています。

### 工業用ミシンのコア技術

#### デジタル制御

##### 縫い目調整のデジタル化とIoTを活用したデータ転送

従来、勘や経験に頼っていた送り歯高さ、送りピッチと軌跡、押え圧、上糸のテンションの5つの“縫い目”の調整機能をデジタル化し、数値で記憶できるようにした技術です。調整後のデータは専用アプリを入れたタブレットに記憶させることができ、近距離無線通信NFC機能により、パネルにかざすだけで別のマシンへのデータ転送を可能にしました。縫製ラインのミシンの設定が容易になり、グローバルでの品質の安定化が図れます。

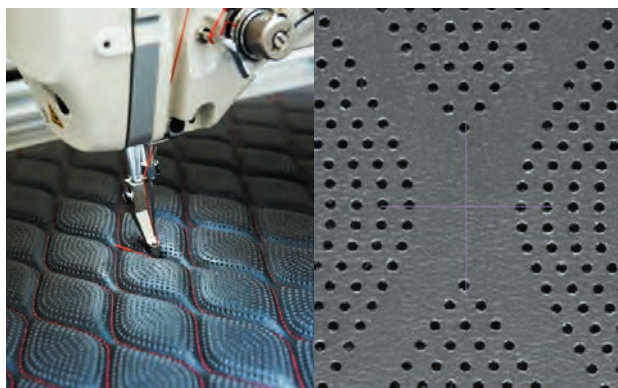


DDL-9000Cのデジタル制御

#### 画像処理技術

##### プログラムデータとのずれ量を画像処理にて補正し、伸縮素材を縫製

パーフォレーション素材のように柔らかく、伸び縮みのある素材に対して、縫うことにより生じる生地縮み量を生地上の目印となる部分からカメラで測定し、基本となるプログラムデータとのずれ量を算出・補正した後、次の縫い目を確実に目標とする場所に形成することで、質の高い安定した縫い目を実現しています。



AMSの画像処理技術

#### アクティブテンション

##### 安定した「縫い」を実現するため糸の張力を動的に制御

上糸と下糸の張力を絶えず最適化し、美しく安定した縫いを実現する技術です。特殊なソレノイドを電流で微細にコントロールすることで糸調子皿を開閉させ、最良の糸調子を生み出します。厚地・薄地・伸縮などの素材変化による制御、縫いトラブルの防止、模様縫いの制御など、多方面で活用しています。



AMSにおけるソレノイド制御

#### ほつれ防止技術

##### 縫い終わりのほつれを阻止するため糸結びを作る

縫い終わりに結び目を作る技術です。機構の違いは多少ありますが、JUKIの多くの製品に搭載されています。偏平縫いマシンにおいては、針糸を専用のフックで斜めに引いてループを作り、そこに針を落とすことにより擬似的な結び目を作ります。専用フックの待機位置、針停止位置などの最適化を図り、タイミングを制御しています。



MF-7900における結び目を作る機構

#### 鳥の巣防止・残短技術

##### 糸摘み作業をなくし、生地裏の縫い品質を向上

縫い始めに糸が鳥の巣状態になるのを防止し、縫い終わりの糸を極限まで短く切断する技術です。縫い始めに上糸を糸掴み装置で捕捉し、これを縫い終わりまでキープします。縫製完了後、通常の糸切り動作の後、残短用のメス機構で縫い終わりの上下糸、縫い始めの上糸を短く切断し、残糸は吸引します。



LK-1903BBにおける残短機構

その他のコア技術

送りの上下駆動

ドライ技術

省エネルギー技術

パーフェクトステッチ

## 家庭用ミシンのコア技術

### フロートモード

#### 押え上げ状態を認識する 独自技術

押えをわずかに布から浮かした状態で縫うことができる技術です。綿を挟んだ生地のような縫いずししやすい素材に効果が高く、エンコーダにより押え高さを常に検知することで0.1mm単位で設定でき、素材に合わせた微妙な調節も可能です。

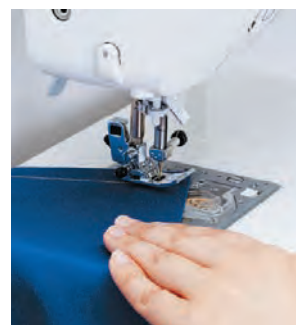


HZL-EX7

### ピボット機能

#### ミシン作動・停止時に 合わせた、独自の技術

生地の角やカーブ部分の縫いを行なう時、ミシンを止めると針が下で停止し、自動で押えが少し上がる技術です。再スタート時は自動で下がるため、作業時間を短縮することができます。エンコーダによる検出で縫製する布の厚さに合せ、押えの高さ設定も変更することができ、縫い始めまでの時間も業界トップレベルを達成しています。



HZL-EX7

その他のコア技術

ボックス送り

完全自動糸掛け(イージースレッダー)

自動押え上げ

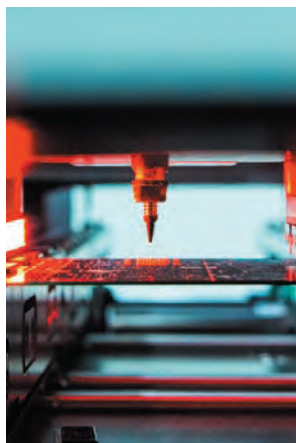
スライド針板

## 産業装置のコア技術

### 匠ヘッド

#### 搭載部品に応じて、認識高さを可変

搭載する部品サイズ(高さ)によって、認識センサを上下に移動する技術です。部品サイズに応じて最適な高さで吸着・搭載を行い高速化を実現します。また、吸着位置から搭載位置への移動中に最多8部品の同時認識が可能です。さらに部品認識カメラの高分解能化、回転軸機構の改良により、極小部品(0.25×0.125mm)から大型部品(角74mm)まで1ヘッドで対応できます。



RS-1の匠ヘッド

### 検査機の3D画像認識

#### DLP方式投影装置で 鮮明に撮像

プリント基板上に部品が正確に搭載され、ハンダ接合しているかを3Dで検査する技術です。投影・撮像を行う3DヘッドユニットにDLPプロジェクターを4方向に配置し、32パターンの縞模様の光を部品に投影することにより測定精度が向上しました。投影速度の高速化、撮像データの取り込み、演算処理の高速化により、高速で鮮明な検査を実現します。



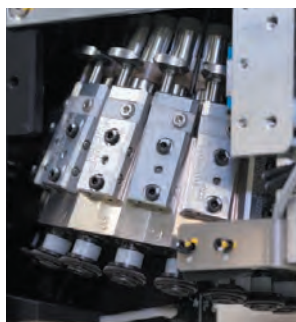
RV-2-3Dの画像認識

JUKIの価値創造

### プラネットヘッド

#### 搭載部品に応じて、 認識高さを可変

プラネットヘッドは回転型ヘッドのことで、ヘッドが回転しながら部品を吸着・搭載できるJUKI独自の技術です。部品の吸着、搭載、位置決めを同時に行うことができ、小型部品を高速で搭載することができます。ヘッド全体が回転するとともに、16個のノズルを自転させることができる独自の機構です。



RX-7に搭載されたプラネットヘッド

### 画像認識技術

#### 専用カメラと多様な認識方法で、 安定した部品認識を実現

部品認識専用カメラと多様な照明方式により、小型チップからIC部品や大型・異型部品まで撮影することで、部品の位置決めと不良がないかを判定します。また、吸着した部品を連続で撮影し、高速で画像認識ができます。部品の認識方法には「反射認識」と「透過認識」があります。



RX-6の画像認識技術

その他のコア技術

レーザ認識技術

部品ペリフィケーション(CVS)

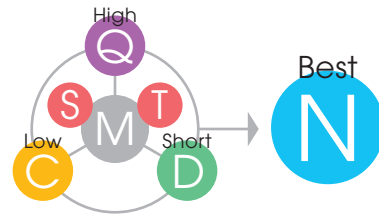




「100%良品生産」を堅守する  
made by JUKI のものづくり。



「JUKI品質」を堅守し、ものづくりの更なる進化に取り組んでいるのがJUKIの製造工場です。そのベースになっているのが、〈Q〉品質、〈C〉コスト、〈D〉納期、〈S〉安全、〈T〉人材育成、〈N〉新製品の「生産の六要素」です。六要素を基に、管理のサイクルを回し、継続した改善活動でレベルアップを図っています。



工業用ミシンの生産は、「お客様に近いところで造る」を基本に、日本・中国・ベトナムの合わせて5工場で製造しています。マザー工場である「大田原工場」で生み出された製造方法や製造工法、ノウハウなどが、グループ工場で共有化され、“made by JUKI”の製品を生み出しています。

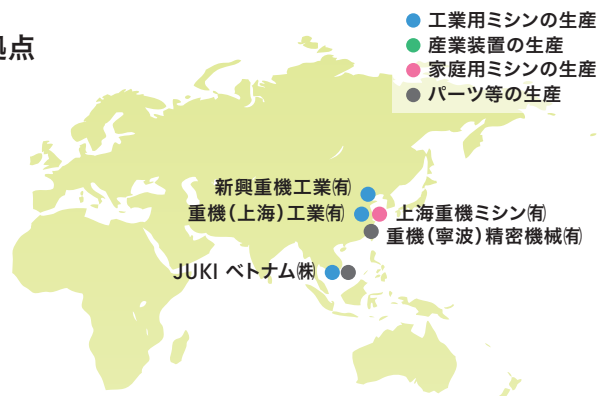
産業装置の生産は、JUKI産機テクノロジー(株)が担っています。フレキシブルな工法開発と改良に取り組みながら、確固たる品質の製品を世界に送り出しています。

# PRODUCTION

## 国内生産拠点



## 海外生産拠点

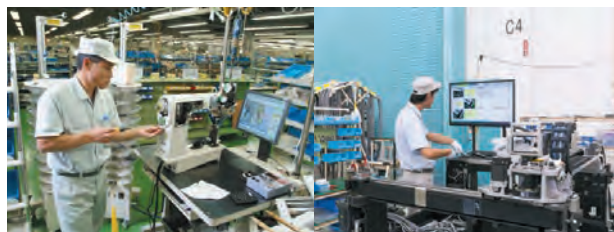


- 工業用ミシンの生産
- 産業装置の生産
- 家庭用ミシンの生産
- パーツ等の生産

## JUKIの生産力

### デジタル生産

大田原工場(工業用ミシンの生産)とJUKI産機テクノロジー(産業装置の生産)では、組み付けの手順がセルごとにタブレット画面で指示されるデジタル生産を導入。短期間での作業習熟や誤組み付け防止とライン編成ロスの削減を可能にし、安定した生産体制を確立しています。



### 技能士育成と品質教育

ものづくりの原点は「人」づくりです。技能資格取得の推進や品質管理教育、社内検定などを駆使して、品質・コスト・納期の維持・向上に継続して取り組んでいます。また、海外工場の将来を担う人材への教育を定期的を実施。マネジメント教育を学んだ人材がJUKI品質を根底から支えています。



### 魅せる工場への取り組み

「5S+安全+QCD」をベースに、ロボット化・デジタル化を通じて、スマート工場への取り組みを進めています。デジタル生産に加えて、フレーム加工、切粉のブロー除去、塗装のそれぞれの工程でのロボット化に加え、工程間の自動搬送システムなど、ITを活用した生産性の高い工場へと変革を進めています。



## TOPICS

### 秋田県内の3社を統合 「JUKI産機テクノロジー(株)」を発足

JUKI電子工業、JUKI秋田精密、JUKI吉野工業の3社間の連携をさらに強化し、重複する間接業務の効率化などを行うために3社を統合し、「JUKI産機テクノロジー(株)」を2017年7月1日に発足しました。

開発・製品組立、プレス・板金・溶接・塗装、大物構造物加工・精密加工のそれぞれの技術を融合し、産業装置の生産性の向上やグループ事業の強化に取り組めます。



JUKI産機テクノロジー(旧JUKI電子工業、旧JUKI秋田精密、旧JUKI吉野工業)

### 保守作業にタブレットを活用したシステムを構築

設備の保全業務の作業効率を向上させるために、タブレット端末を駆使した修理システムを構築。過去の修理記録のデータベースを構築し、タブレットでそれぞれの特徴を把握しながら修理できるようにしました。保全の業務は、海外のグループ工場でも共通する点が多く、工業用ミシンを生産している中国やベトナム工場でも、大田原工場で蓄積したノウハウを展開していく予定です。



一人1台タブレットを活用して保全の業務を行う



## 生産力

# 進化を続けるJUKIグループのマザー工場「大田原工場」

## 大田原工場のスマート化の取り組み



### 大田原工場の特徴

大田原工場は、栃木県大田原市に立地するJUKIグループの中核工場です。高付加価値製品を中心に、加工から塗装、組立、梱包・出荷までの一貫生産を行っています。

同時に、新製品を量産するための最善の手順や治具の構築、高効率で先進的な生産システムの開発など、日々進化を続ける生産ノウハウを発信し、国内外のグループ拠点のマザー工場としての役割も担っています。

### 自動搬送装置(AGV)の活用

工場内の搬送作業を自動化した装置で、部品や仕掛品、完成品などを自動搬送します。従来は、搬送車自体が稼働していましたが、新AGVは動力装置と台車を切り離し、動力装置が稼働し台車を牽引する方式に改善しました。これにより投資金額を最小化できました。



### 生産進捗の見える化

組立工程の生産進捗をネットワークで共有化し、前後工程においてもタブレットで確認できるようにしました。AGVと連動させることにより、「必要な時」「必要な場所」に「必要な数だけ」届ける仕組みを構築しました。



### 高品質のものづくり

各種国家検定に加えて工場独自の検定や、人材育成マップの活用を通じて計画的に技能を有する社員の輩出に努めています。国家検定の合格者総数は251名で、取得率は71.1%に達しています(2016年度)。



## フレーム加工

工業用ミシンの核となるフレーム(アームとベッド)の表面切削やネジ穴加工などを、マシニングセンタ(数値制御工作機械)でコンピュータ制御により、高速・高精度の加工を行います。加工には、最適形状に設計したJUKIオリジナルの工具類が使用され、変種変量生産にきめ細かく対応します。

## 塗装

加工されたフレームに粉体塗装を施します。作業性・安全性など、人体への影響を避けるため、マシン種に応じたプログラムでロボットが自動で塗装を行います。特殊ミシンの塗装は、従来は熟練担当者が行っていましたが、全てロボット化しました。下塗りの前にフレームをあらかじめ加熱することにより塗料の塗着性と塗膜性能を高めました。

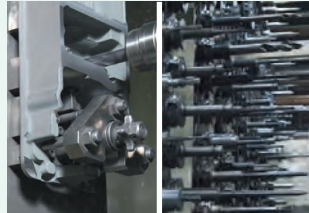
## 組立

塗装されたフレームに各種部品や駆動モーター、糸切りユニットなどを作業者が組み付けていきます。組み付けの手順や必要な部品・工具がセルごとにモニター画面に表示される「デジタルセル生産」方式を自社開発で構築しています。これにより誤組み付けの防止や作業習熟期間の短縮、変種変量生産への対応が容易になります。また、独自の検定制度などを通じて社員の技能向上を図っています。



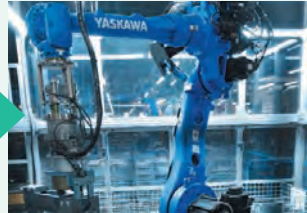
### マシニングセンタ

生産ライン上に多くの加工機械(マシニングセンタ)が並び、24時間止まることなく加工を行います。



### フレーム加工

マシン種に応じたプログラムで、超微粒子工具など多数の切削工具を自動交換しながら加工を行います。



### マテハン用ロボットによる搬送

加工が完了したフレームはパレットで搬送され、フレームの位置を3Dカメラにて確認し、マテハン(material handling)用ロボットがピッキングして搬送します。



### エアブローロボットによる切り粉の除去

加工後、ネジ穴や表面に残っている切り粉を、2台のロボットがエアブローにて除去を行います。密閉された空間で行うことにより安全が守られます。



### マスキング

塗装工程の前に、ネジ穴など塗装を行わない箇所をふさぐマスキングを行います。



### プレヒート

下塗りの前にフレームをあらかじめ加熱し、塗料の塗着性を高めます。



### ロボット塗装

マシンの種類に応じて塗布方向を工夫し、最も効率的なプログラム手順で塗装を行います。上塗り工程のロボット化に続き、下塗り工程、手作業塗装も全てロボット化を図りました。



### JUKIロゴ印刷

ロボットによる塗装の後、焼付け乾燥を行い、「JUKI」のロゴを印刷します。「1台1台を大切に」という思いを込めて、この工程は手作業で行っています。



### 組立用工具

組立工程は、コンピュータにより使用する工具や組み付ける部品、ネジ締め付けトルクなどをサーバで一元管理しています。



### デジタルセル生産「一人完結方式」

2004年から開始した生産方式で、モニター表示を見ながら組み付けを行うため、長い作業工程を1人で担当しても製品を完成できます。特殊マシンや自動機などの生産で活用しています。



### デジタルセル生産「リレー方式」

2005年より開始した生産方式で、同じ製品の組み付けを工程分割し、移動式の作業台で作業範囲を固定しないで互いに支援しながら次工程へリレーしていくやり方です。主に「量産用製品」の組み付けを行っています。



### デジタルセル生産「混流方式」

2016年より開始した生産方式で、数種類のマシンの組み付けを工程分割し、異なる種類のマシンを交互に移動式の作業台で組み付けていくやり方です。主に「少量多品種製品」の組み付けを行っています。



# ステークホルダーとともに お客様とともに

## 工業用ミシン



(写真は技術サービスマネージャー Croce Angelo さん)

### HERNO 社 CEO兼オーナー Claudio Marenzi さん

HERNO社は1948年の設立から、来年2018年には創業70年を迎える歴史ある会社です。HERNOのブランドで高級婦人服や紳士服をはじめ、数多くのアウターウェアを生産し、イタリア国内はもちろんのこと、ヨーロッパ、アメリカ、日本など、多くの国々で販売されています。

Made in Italyのブランドとして、品質やデザインの美しさはもちろんのこと、機能性にもこだわりを持っています。その両面でおお客様にご満足いただけるように、社員も全生産プロセスを学び知識を深め、また、縫製フロアをオープンスペースにし、品質向上のための意見交換を日々行っています。こうした全社員の努力でブランドの伝統が守られ、この10年間成長を続けています。

JUKIのミシンとの出会いは1985年頃で、当時も最新で高度な技術に驚きました。それから30年以上のつきあいがありますが、製品の信頼性の高さ、質の高いサービスに満足しています。今後さらに研究開発を進め、世界のHERNOブランドを支える技術革新に取り組んでいただきたいと思います。

“高級ブランドHERNOを  
高度な技術で支えています”



オープンスペースのフロア



HERNOブランドのアウターウェア

## 家庭用ミシン



### キルト作家・講師 中沢フェリーサ さん

キルトを始めたきっかけは、アンティークの藍染め生地との出会いです。生まれ育った場所で子供の頃見た、抜けるような青空と重なるものがあり、心を奪われました。

キルトは長い歴史があり、その中でたくさんの作品が生み出されていますが、私がこだわり続けてきたことは、オリジナリティです。作り続ける中で湧きでてくるデザインや色合いなどのイメージを大切に、それを膨らませながら制作しています。

JUKIのミシンは、家庭用・職業用・ロック・ロングアームキルティング専用ミシン、最近では工業用ミシンDDL-9000Cまでフルラインナップで愛用しています。縫いの安定性と細部に亘る親切設計が気に入っています。毎日使う私のパートナーですので、週に一度は掃除し、オイルを差すなどのメンテナンスも丁寧に行っています。

キルトジャパン、Quilt Maniaやmagic Patchなどの雑誌に作品を発表したり、「キルト日本展」「キルト大賞」「AQS」などに出品し、たくさんの賞もいただけてきましたが、もっともっと納得のできる作品を追い求めて、毎日制作に励んでいます。

JUKIさんにはさらに技術に磨きをかけていただき、これまでにない画期的なキルトミシンを作ってほしいです。

“JUKIのミシンで  
制作の幅が広がりました”



中沢フェリーサさん自宅のアトリエとキルト作品



## 産業装置



**シンセン双翼科技有限会社**  
 董事 頼偉強 さん

TWOWINGは従業員約3,000人の2006年に設立した会社です。PON「Passive Optical Network」セットボックスなど、通信用の製品を開発、製造、販売しています。中国国内の他、ヨーロッパ・東南アジアへも輸出を行っています。

お客様ニーズの多様化により、多品種少量生産が多く、生産準備時間(段取り時間)の効率化に日々努力しています。また、生産性を向上させるために社員教育にも力を入れています。教育カリキュラムに沿った指導や職場でのOJT教育などを通じ、業務知識やレベルの向上、チームワークの醸成に取り組んでいます。

JUKIさんのサービスエンジニアはとても勤勉です。基板製造ラインのマシンに回路故障が発生した際は、問題を分析し解決するまで、サービスチームの皆さんは非常に粘り強く対応してくれました。これほどまでの顧客サービスは目を見張るものがあり、JUKIさんへの信頼がさらに増しました。

今後さらなる技術力の向上と手厚いサポートで、私たちの会社が成長するために力を貸していただきたいと思います。

“不測の事態にも粘り強く  
 対応していただける  
 手厚いサポートが魅力です”



## グループ事業



**日立工機株式会社**  
 調達本部長 森田 清 さん

私たちの会社は、約1,500種類の製品を品揃えしている電動工具の総合メーカーです。国内外に9工場あり、世界のお客様に製品をお届けしています。

私たち調達部門の役割は「利益への貢献」と「持続的な安定調達の実現」です。日々、「品質(Q)・コスト(C)・納期(D)」のバランスを意識しながら調達活動を行っています。会社の行動指針の一つに「ABC作戦」というものがあります。ABCの意味は「A諦めず、Bぶれず、Cちゃんとやる」です。JUKIさんは私たちのその指針に共感いただき、タイムリーな新製品開発のために一緒に汗をかき、努力していただいています。

JUKI会津さんとは約30年前から、JUKIベトナムさんとは約15年前から取引があり、私たちのものづくりに欠かせないパートナーとなっています。最近では、JUKI金属さんで造った鋳物をJUKI大田原工場さんで加工していただくことを計画中で、さらにJUKIのグループ事業との取引の拡大を推進しています。同じものづくり企業として、切磋琢磨しながら、私たちが世界のメジャープレーヤーになるためにこれからも力を貸していただきたいと思います。

“JUKIは一緒にものづくりに  
 取り組んでくれる  
 信頼できるパートナー”



日立工機の商品を展示している  
 ショールーム(茨城県勝田工場内)

JUKI会津株が受託製造しているパーツ



# ステークホルダーとともに お取引先とともに

JUKIグループは、地球企業の一員として、お取引先とともにグリーン調達を推進しています。公平で公正な取引に注力し、お取引先とともに技術力の向上に努め、共存共栄を目指しています。また、説明会や研修会を通して、お取引先とのコミュニケーションを強化しています。

## JUKI協力会研修会

2016年7月にJUKI協力会研修会をベトナム・ホーチミン市で53社56名の会員様にご参加いただき開催しました。JUKIベトナムの工場や縫製大手ユーザーのTMI(ベトナム)の工場を訪問し、自分たちのパーツ製品が組み込まれたマシンが実際に縫製工場で使われている様子を見学しました。懇親会ではJUKIトップと会員様および会員様同士の交流がより深められました。



縫製大手ユーザーのTMI (VIETNAM) CO.,LTD. の工場前にて記念撮影

## お取引先とのコミュニケーション

JUKIでは年3回の交流会を開催し、お取引先とのコミュニケーションを図っています。

毎年11月の品質月間に合わせた研修会は大田原工場にて開催し、JUKI協力会93社、98名の会員様が参加されました。JUKIに対し特に貢献いただいたお取引先(優秀賞1社、努力賞7社、計8社)を表彰し、55社に保証納入認定書を交付、お取引先との協力関係維持強化に努めています。

また大田原工場のスマート工場化に向けた具体的な取り組みや、ノンパレル業界の動向についての講演を行い、参加されたお取引先様より好評をいただくなど、有意義な研修会を実施しています。



## グリーン調達

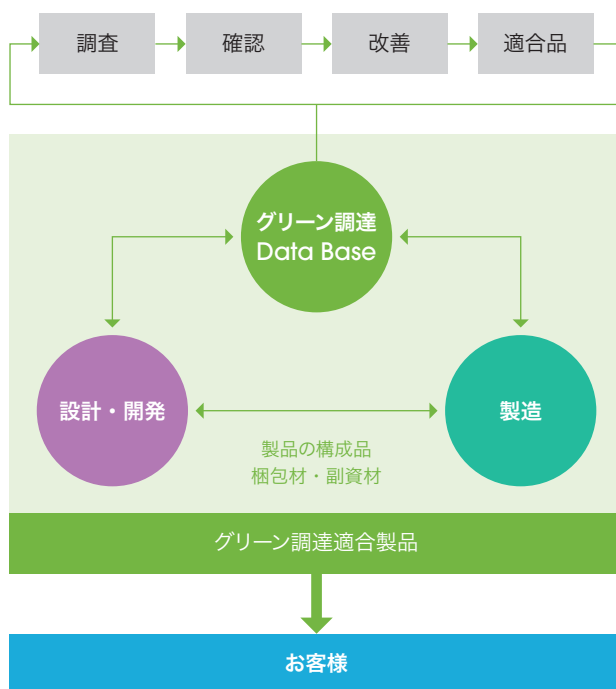
JUKIグループでは、1998年に制定した「ECO MIND宣言」に基づいて、地球環境にやさしい環境保全活動に、お取引先とともに取り組んでいます。

2011年からは物質管理の手段として、サプライチェーンを基本にした業界標準のJAMP AIS調査ツールを取り入れて、国内外の拠点で活動を展開しています。また、製造拠点においては、それらの入荷時に有害化学物質分析を行うことで、万一の有害物質混入を防いでいます。

「JUKIグループグリーン調達ガイドライン」は、2004年8月に初版を制定し、法改正などを反映させた見直しを行い、2016年に第8版目の改訂を行いました。8版目の改訂は、世界的に広がりつつある環境に影響のある物質の拡大に適應した管理基準の見直しと、サプライヤー様の環境管理システムの構築や運用の評価基準についても明確にしました。

当社は、今後も製品の環境適合性を維持・向上することで、環境に配慮した製品をお客様にご提供していきます。

\*グリーン調達ガイドラインは、JUKIホームページでご紹介しています。  
[http://www.juki.co.jp/eco/5\\_green.html](http://www.juki.co.jp/eco/5_green.html)



## 株主・投資家とともに

株主や投資家に向けたタイムリーな情報公開を通し、経営の透明性を高めていきます。皆様からいただくご意見を参考に、ご期待に応えられるよう努めています。

### 株主総会

毎年3月に定時株主総会を開催し、より多くの株主の皆様にご参加いただけるよう、集中日を避けるなどの工夫をしています。

2017年3月28日には、JUKI本社において「第102回定時株主総会」を開催し、多くの株主の皆様にご来場いただきました。また、株主総会終了後には、恒例の主力製品見学会を実施し、出席された株主の皆様とコミュニケーションを深めました。

株主の皆様からいただいたご意見を今後の取り組みに反映させ、ご期待にお応えできるよう引き続き努力します。



### IR決算説明会

JUKIは、株主・投資家とのコミュニケーションを強化するために、適切な情報開示と理解促進に積極的に取り組んでいます。この一環として機関投資家を対象とした決算説明会を年2回開催しています。

2017年2月14日、(株)日本投資環境研究所(中央区日本橋)で、2016年12月期の決算説明会を行い、「2016年12月期業績の概要と2017年度業績予想」および「中期経営計画-Value up 2022-(2017-2019年度)の取り組みと重点施策」について、説明を行いました。また、個人株主様からのお問い合わせへの対応や証券アナリスト、ファンドマネージャーなどの個別取材に対応するなど、積極的な対話に努めています。



## 社会とともに

世界に広がる販売ネットワークを通し、180カ国のお客様に製品をお使いいただいています。地域および社会と良好な関係を築くことができるよう取り組んでいます。

### 新潟県技能競技大会へ参加

2016年度新潟県技能競技大会の一般熱処理作業2級試験において、鈴木精密工業所2課の佐藤恵子さんが1位(金メダル)を獲得しました。

新潟市のときメッセで行われた新潟県職業能力促進大会の表彰式で佐藤さんが表彰され、賞状が授与されました。



### 第10回親子手提げバッグ製作講習会を開催

2016年7月21日、22日の2日間、本社にて「親子・手提げバッグ製作講習会」を開催し、41組91名の親子に参加していただきました。この講習会は毎年夏休みに開催し、今年で10回目となりました。子供たちは実用的な手提げバッグを、保護者の方は人気のワイヤー口金バッグを製作しました。ミシンの楽しさ、ものづくりの楽しさを感じていただくこの活動を今後も推進していきたいと思えます。



### チャリティパートナーシップキルトに参加

全国から送られた作品をつなげて「パートナーシップキルト」として一つの作品に完成させ、チャリティとして販売し、その売上金を東日本大震災の被災地や福祉施設に寄付する活動に参加しました。作品は、1月に東京ドームで開催された国際キルトフェスティバルで展示され、販売されました。





# ステークホルダーとともに 社員とともに

JUKIグループが目指すのは、国籍・人種・性別・年齢を超えて「雇用と成長」の機会を提供するグローバル企業です。国内外を問わず多様な人材の活躍を可能とする教育制度や、働きやすい環境作りを通じて、事業発展と社員満足度の向上に努めています。

## JGQMF2016

2016年11月25日にJUKI本社食堂にて、JUKI GLOBAL QUALITY MANAGEMENT FORUM 2016を開催しました。テーマは「一人ひとりの働き方改革でJUKIの企業価値を高める」で、たくさんのエントリーの中から働き方改革を実践したテーマを厳選し、10テーマの発表を行いました。テレビ会議システムにて12拠点を接続し、総勢542名が参加しました。



## 働き方改革

JUKIは「業務のムダ」を省き、「付加価値を高める仕事」へ変革させ「成長のサイクル」を目指しています。一人ひとりが取り組み、お客様に選ばれる高品質な製品・サービスを提供し続ける企業を目指しています。



2017年4月に若手社員が参画する「One JUKIプロジェクト」の第一期がスタートしました。「働き方改革」をはじめ「メンドミ運動」「JUKIの未来」などのテーマに取り組み、JUKIの未来のために実践しています。

## 海外社員研修

海外グループ会社のナショナルスタッフの研修を企画、実施しています。特に経営幹部、マネージャークラスを中心に、海外主要拠点に集めての研修や本社に集めての研修を実施。今後も、本社とグループ会社間の連携をさらに深めながら、グループ内人材育成強化の推進を図ります。



## 救命救急講習

救命救急講習を行っています。講習では、自動体外式除細動器(AED)についての取り扱いを始め、救急時にその場に居合わせた人が活用できるように社員への講習を定期的実施しています。



# ダイバーシティへの取り組み

性別・年齢・国籍等にかかわらず、多様な人材、多様な働き方を受け入れ、一人ひとりの多様性を活かすダイバーシティマネジメントを実践することで、イノベティブ(革新的)で、活気のある社員と組織風土を生み出し、組織パフォーマンスを最大化することを目指しています。

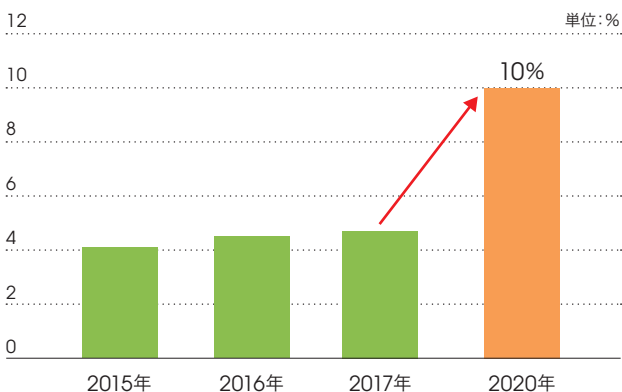
## ダイバーシティ推進の取り組みの柱



### 1. 女性活躍推進

男女の社員割合と比較して、管理職に占める女性の比率が低く、女性社員の能力開発・活躍推進が課題となっています。JUKIでは2020年までに、女性管理職比率を10%にする目標を掲げ、女性のキャリア形成支援を進めています。

#### 女性管理職比率



\*JUKIオートメーションシステムズ(株)含む  
2017年7月1日現在

### 2. グローバル人材配置

グローバルに活躍する社員が、さらにステップアップしていくためのグループ人事交流を進めています。環境・価値観がぶつかる中で変化が生まれ、社員や組織の活性化につながります。

### 3. 専門社員の活躍推進

JUKIには、約130人(2016年12月現在)の再雇用者・契約社員・パートタイマーが働いています。優れた能力やノウハウを持つ社員、専門性の高い社員がより活躍できる環境を整えるために、2017年1月より、「専門社員制度」をスタートさせました。専門社員を対象に、今後さらに働き方のコース変更や処遇制度の改正に取り組んでいきます。

JUKIの価値創造

## TOPICS

### 「女性部下の育成・マネジメント研修」を実施

2016年12月に、女性部下がいるライン長を対象に研修を実施しました。外部の講師をお招きし、JUKIにおける女性活躍の課題の抽出や、産休・育休等で時間制約のある社員への仕事の与え方・キャリア形成の考え方などについて、ディスカッションを交えながら学習しました。受講者からは「女性のライフイベントをよく理解し、事前に備えることの必要性を実感した」「部下の今後のキャリアプランをより具体的にイメージできるようになった」などの感想があり、各職場で生かせるようにさらに推進していきます。





# 環境に対する取り組み

## 環境ビジョン

JUKIグループでは、ものづくり企業として地球環境を大切に、資源の有効活用、リサイクル、省エネルギーに積極的に取り組んでいます。さらに安全で環境負荷の少ない製品をお客様に提供し、地域の産業発展に貢献することで、お客様をはじめ、広く社会から信頼され、社会にとって存在価値のある会社であり続けることを目指します。

## 環境に配慮した ものづくりを通じて、 お客様、地球環境に 貢献していきます

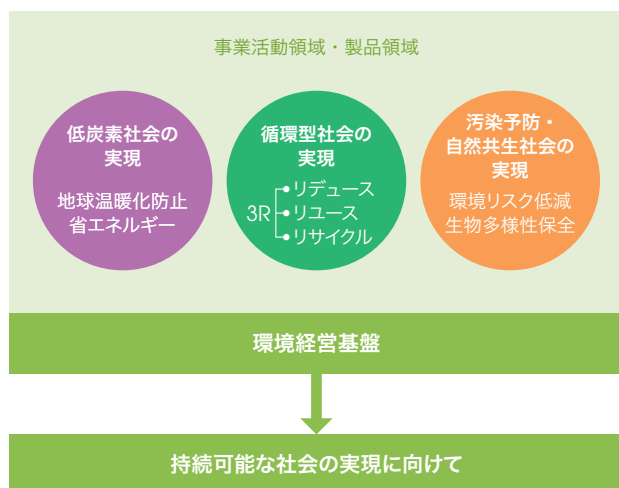
### JUKIグループ環境保全活動の考え方

JUKIグループは、持続可能な社会の実現に貢献するために、「低炭素社会の実現」、「循環型社会の実現」、「汚染予防・自然共生社会の実現」という3つの領域で環境経営を実践しています。これらを全てのステークホルダーに、より具体的に示すため、「環境理念」と「環境行動指針」からなる「ECO MIND宣言」を行っています。

「ECO MIND宣言」とは、JUKIのコーポレートスローガン「Mind & Technology」を構成するMindの「品質」、「顧客満足」、「人間性尊重」に、「環境」を加えることです。

これに基づいて、JUKIグループが具体的に環境への取り組みを進めるための指針「環境保全ガイドライン」を策定し、JUKIグループとしての環境保全活動を実践しています。

また、情報交換や水平展開を行い、グループ全体のレベルアップを図っています。



## ECO MIND

未来へひきつぐ、地球のいのち



### ECO MIND宣言

#### 環境理念

JUKIグループは、企業活動が広く地球環境と密接に関わっていることを認識し、

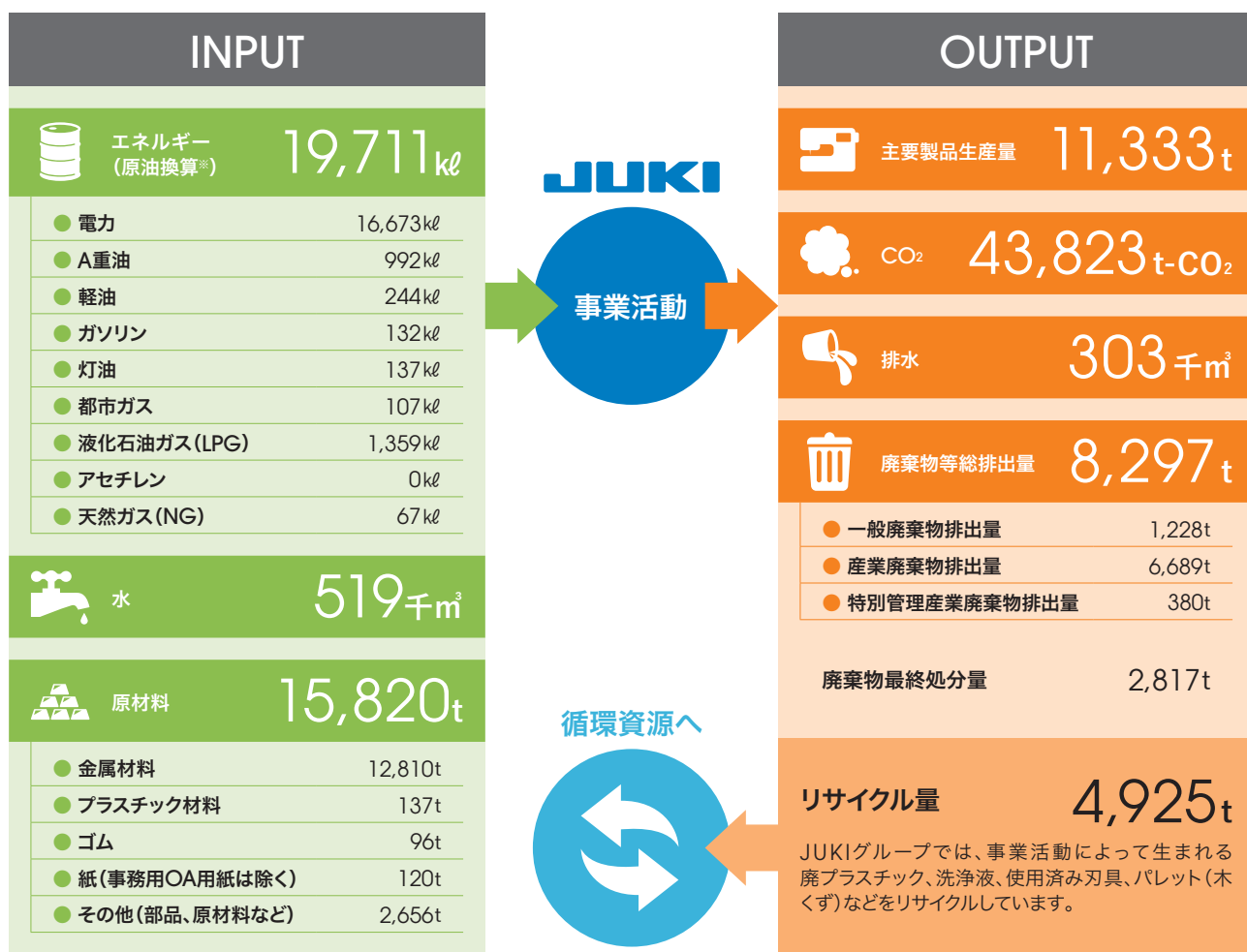
1. 環境に配慮した企業活動により、地域と社会に貢献する。
2. 環境にやさしい製品を世界の人々に提供する。
3. 持続的な活動を通じて、よりよい地球環境を次世代にひきつぐ役割を果たす。

#### 環境行動指針

1. 事業活動全般にわたって省エネルギーを推進し、地球温暖化防止に努める。また3R(リデュース・リユース・リサイクル)の実践により資源の有効利用を図る。
2. 環境への影響に配慮した企画、研究、開発、調達、生産を行い、より環境負荷の少ない製品を提供する。
3. グローバル企業として、事業展開する全ての国や地域の特性に応じた環境保全活動を通して、その国や地域に貢献する。
4. 環境関連法規制及び同意するその他の要求事項を順守するとともに、環境汚染を予防する。
5. 環境情報の公開を積極的に行う。
6. 教育・啓発活動を通じ、社員一人ひとりは「環境意識」の向上を図り、環境保全活動を実践する。

# 事業活動における環境への影響

JUKI製品は、部品や材料に貴重な資源を使用し、多くのエネルギー・資源を使って製造されています。  
このためJUKIグループでは、事業に関連する環境負荷を明らかにして、環境パフォーマンスの改善を進めています。



- **電力**: 工場やオフィスで使用する電力会社からの購買電力
- **A重油**: 塗装施設の乾燥炉など、設備を動かすために使用
- **軽油**: トラックの燃料
- **ガソリン**: 社用車の燃料
- **灯油**: 暖房用(温風機)の燃料
- **液化石油ガス**: 常用発電機の燃料
- **アセチレン**: 設備修理時、鉄板切断や溶接時に、ガス溶接の燃料
- **天然ガス**: 食堂での調理や浴室給湯などの燃料
- **金属材料、プラスチック材料、ゴム**: 部品の材料
- **紙**: 輸送用ダンボール、製品の梱包、荷崩れ防止用および製造工程での製品の打コン防止用

- **CO<sub>2</sub>**: 電気や燃料の使用に伴い発生
- **一般廃棄物**: 家庭や企業などから排出される廃棄物のうち、産業廃棄物以外のもの。ここでは事業活動の中で排出される生ごみなどの生活ごみや、紙ごみなどを含む
- **産業廃棄物**: 工場などの事業活動に伴って排出される廃棄物のうち、法律で定められた20種類の廃棄物。鋳物に使用した廃砂、パレット(木くず)、切削油、開発製品の試験研究に使用した試作機などを含む
- **特別管理産業廃棄物**: 産業廃棄物の中で、爆発性、毒性、感染性が高く、人の健康や生活環境に被害を生ずる恐れがあるもので、特に厳重な管理が必要。古いコンデンサなどに含まれるPCBなど
- **最終処分**: 廃棄物でリサイクルできないものを埋立処理すること
- **リサイクル**: 資源として再生して有効利用すること

このデータは、JUKIと国内・海外製造グループ会社の2016年度データについてまとめたものです。  
原材料については、一部把握できていないグループ会社もあります。

※ 原油換算: 異なるエネルギー量を共通の尺度で比較するために発熱量を用いて、原油の量に換算したものです。

JUKIの価値創造



# 環境に対する取り組み 海外

## JUKIベトナム(株)での環境法規制対応

JUKIベトナム(株)の第二工場の生活排水が基準値を超えていたため、2016年4月に処理システムを導入し、改善を図りました。

また、有害廃棄物は個別に番号を付けることで、見える化し分別管理を実施しています。



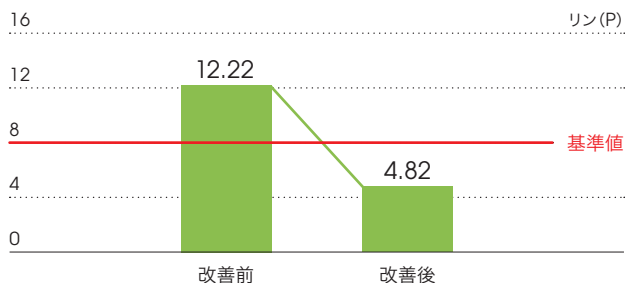
JUKIベトナム(株)第二工場処理システム



ゴミ置き場所

有害物置き場

### リン(P)の排水量



## 重機(上海)工業(有)での環境教育の推進・強化

重機(上海)工業(有)では、毎年3月に工場環境美化の意識を向上させるため、「植樹デー」の活動を行っています。

また、毎月22日は「車を使わない」運動を行っており、エコ意識の向上に取り組んでいます。この効果として、CO<sub>2</sub>排出量を、12,212kg-CO<sub>2</sub>/年削減できました。

この他、社員食堂では、1ヶ月に1日「食べきり運動」を実施し、生ゴミの発生量削減に取り組んでいます。この効果金額は136元/日で、680人の全員参加で実施しています。



重機(上海)工業(有)での植樹デー

参加者

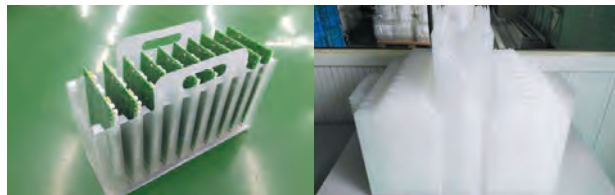
## 上海重機ミシン(有)での梱包資材の削減活動

上海重機ミシン(有)では、材料・部品調達段階での取り組みとして、基板の梱包方法に関する改善を行いました。従来は一つひとつ静電防止袋に入れ、段ボールで輸送を行っていましたが、最終的には廃棄物となります。

そこで、静電防止袋を廃止し、静電防止トレーを製作、通い箱にしました。その結果、廃棄物排出量が低減し、年間効果金額は8,170元になりました。現在は、メイン基板を重点に実施していますが、他の基板にも水平展開をしていきます。



実施前：廃棄物となる静電防止袋



実施後：静電トレーのままライン投入可能

## 重機(寧波)精密機械(有)での環境汚染防止活動

重機(寧波)精密機械(有)の工業排水は、ドラム缶に詰め、外部委託して処理をしていましたが、コスト削減を目的に処理装置を導入し社内処理に切り替えました。加えて導入した装置を社内で一工夫したことにより、排水規制値を大幅に下回る数値を達成できました。この処理方法をビデオで従業員をはじめ、お客様・関係機関へ公開し、環境に対する取り組みをPRしています。



沈澱池へ吸収綿を入れる



最終排水処理設備

# 国内

## JUKI産機テクノロジー(株)での環境法適応

JUKI産機テクノロジー(株)では、フロン排出抑制法が2015年4月に施行されたことから、第2種冷媒フロン類取扱い技術者の資格を取得しました。冷媒フロン機器の定期点検を自ら実施するとともに使用状況を管理しています。



冷媒フロン機器の定期点検

## JUKI松江(株)での物流段階でのCO<sub>2</sub>排出量削減の取組み

JUKI松江(株)では、「モーダルシフト※1」輸入港変更によりCO<sub>2</sub>を削減しています。削減油量は1,375ℓ/年、CO<sub>2</sub>削減総排出量は3,555kg/年で、従来より88%削減しました。

※1:モーダルシフトとは、旅客や貨物の幹線輸送を、大量輸送が可能な貨車や船舶輸送に切り替え、CO<sub>2</sub>の排出削減を図ることを言います。



## 大田原工場での地域との環境コミュニケーション

JUKI(株)大田原工場では、近隣地区の方々が実施されます排水溝の清掃に積極的に参加し、コミュニケーションを深めています。

また、毎年11月にJUKI排水説明会を開催し、近隣地区役員の皆様方を工場にお招きしています。市役所の生活環境課ご担当者様から詳細な排水分析結果をご報告いただくとともに、情報交換を行いながら信頼関係を築いています。



排水溝清掃の様子

## (株)鈴木精密工業所での生産段階でのCO<sub>2</sub>削減の取組み

(株)鈴木精密工業所では、省エネ・生産性改革投資促進事業費補助金を活用して、工場内の空調機6台を省エネタイプに更新しました。1991年の導入当初からの空調機は23台あります。

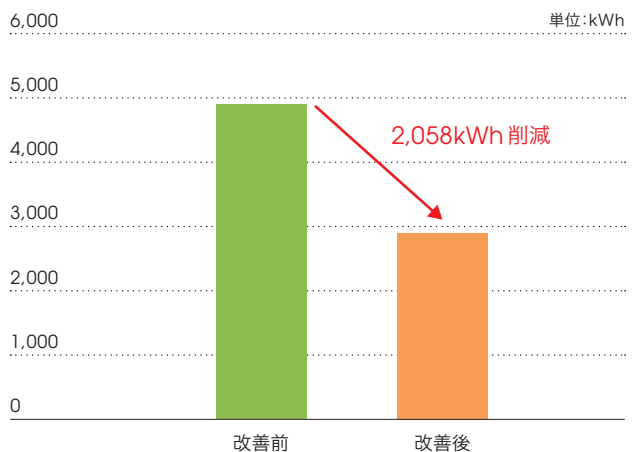
6台の新しい空調機は単に省エネだけでなく、本体が小さいため、工場スペースが広がり、音が静かでフィルタの掃除もしやすく、複合的な効果もあり、1カ月の使用電力量を2,058kWh削減できました。



導入前

導入後

## 使用電力量の削減





# コーポレート・ガバナンス

## 役員紹介

(2017年6月1日現在)

### 取締役



#### 清原 晃

代表取締役社長  
兼 JUKIオートメーションシステムズ(株)  
代表取締役社長



#### 宮下 尚武

取締役常務執行役員  
「事業センター(縫製機器&システムユニット)担当」  
兼 縫製機器&システムユニット長  
兼 縫製機器&システムユニットニットカンパニー長  
兼 スマートソリューション営業部長  
兼「事業センター(カスタマービジネスカンパニー)担当」  
兼 重機(中国)投資有限公司董事



#### 和田 稔

取締役常務執行役員  
「開発センター担当」  
兼「品質保証部担当」



#### 内梨 晋介

取締役常務執行役員  
「グローバルコ・オペレートセンター(財務経理部)担当」  
兼「事業センター(グループ事業カンパニー)担当」  
兼「生産センター担当」



#### 長崎 和三

社外取締役  
(独立役員)



#### 堀 裕

社外取締役  
(独立役員)

### 監査役



大竹 義博  
常勤監査役



後藤 博文  
常勤監査役



田中 昌利  
社外監査役



磯部 康明  
社外監査役  
(独立役員)

### 常務執行役員



二瓶 勝美  
常務執行役員



見浦 利正  
常務執行役員



阿部 裕  
常務執行役員



濱 学洋  
執行役員



Robert J. Black Jr.  
執行役員



小西 浩樹  
執行役員



高橋 喜久雄  
執行役員

### 執行役員



浜外 剛重  
執行役員



新田 実  
執行役員



松本 潔  
執行役員



石橋 次郎  
執行役員



鈴木 正彦  
執行役員



貫井 邦夫  
執行役員



中尾 憲二  
執行役員

# JUKIグループのコーポレート・ガバナンス運営体制

コーポレート・ガバナンス体制の充実、コンプライアンスの徹底およびリスクマネジメントの強化に努め、透明性の高い経営を目指します。

## コーポレート・ガバナンス

JUKIは、経営の健全性・効率性を確保する観点から、また、ステークホルダーの信頼にお応えするため、コーポレート・ガバナンス体制の適切な維持・運用を最重要課題の一つと位置付け、その整備と充実に努めています。

また、適時かつ正確な情報公開を通して、経営の透明性を高めています。

JUKIの取締役会は、法令で定められた事項や経営に関する重要事項を決定するとともに、業務執行の状況を逐次監督しています。また、執行役員制度を導入し、業務執行の円滑化と責任の明確化を図っています。

取締役6名の内、2名を社外取締役とすることで、取締役および取締役会の経営監視機能を高めるとともに、社外からの意見を経営に積極的に取り入れる体制を強化しています。

また、取締役会の下に経営戦略会議を組織し、当社およびグループ会社からなる企業集団に関して、取締役をはじめ担当執行役員や担当部門責任者も出席し、経営に関する基本方針や戦略などについて様々な角度から審議することで、より適切な意思決定および業務の執行が可能となる体制をとっています。

リスク管理体制としては、リスク管理会議、危機対応タスクフォースを設置しています。

内部監査の組織としては、監査部を設置し、当社各部門およびグループ会社に対する業務監査を行っています。また監査役監査は、監査役会が定めた監査方針や業務分担などに従い、監査部および会計監査人と相互連携を取りながら実施しています。監査役を補佐する組織としては、監査役室を設置しています。

## コンプライアンス

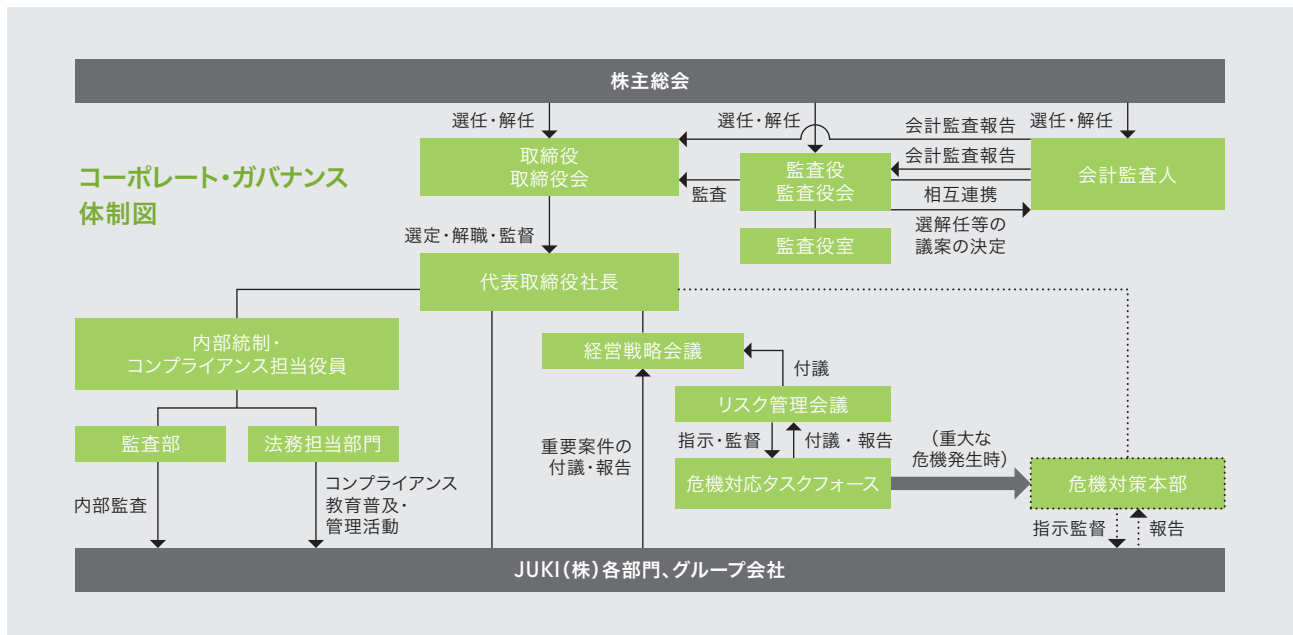
JUKIグループは、お客様をはじめとして広く社会の皆様から信頼され、社会にとって存在価値のある企業グループであり続けることを目指して、コンプライアンスを重要な経営基盤と位置づけています。JUKIの従業員はもちろんのこと、グループ会社の役員および従業員は、法令順守や良識を持った行動などについて解説されている「JUKIグループ社員行動規範「10カ条」」に則って行動するよう、徹底しています。従業員からの相談・疑問などに対しては、JUKIおよびグループ会社に相談窓口を設置して迅速に対応しています。また、コンプライアンスに関わる重要なリスクについては、リスク管理会議において管理しています。

## リスクマネジメント

JUKIグループではリスク管理体制として、リスク管理会議を設置しています。リスク管理会議では、全社的リスクおよび重要リスクを管理し、必要な場合はリスク低減のための改善対策を取ることを指示しています。また、天災、火災や爆発、PL（製造物責任）に関わる問題、工場廃水による環境問題などの危機の発生（リスクの顕在化）に備え、危機対応タスクフォースを設置し、対応措置を検討、実行できる体制を整備しています。

さらに重大な危機が発生した場合には「危機対策本部」を設置し、迅速な危機対応を行います。

JUKIの価値創造





# 財務データ

## 2年間の主要財務データ(連結)

(単位：百万円)

	2015年度 2015年12月期	2016年度 2016年12月期
<b>損益状況 (会計年度)</b>		
売上高	112,865	97,724
(海外売上高比率)	85.6%	83.7%
売上総利益	34,571	29,590
営業利益	7,110	4,651
経常利益	5,728	3,022
親会社株主に帰属する当期純利益	3,853	1,883
設備投資額	1,252	1,642
減価償却費	2,990	2,583
研究開発費	4,871	4,408
<b>財政状態 (事業年度末)</b>		
総資産	119,281	111,365
純資産	28,477	27,582
自己資本	27,678	27,005
<b>財務指標</b>		
自己資本比率	23.2%	24.3%
自己資本当期純利益率 (ROE)	14.9%	6.9%
<b>キャッシュ・フロー状況 (会計年度)</b>		
営業活動によるキャッシュ・フロー	8,924	9,818
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,218	△1,046
フリーキャッシュ・フロー	7,705	8,772
財務活動によるキャッシュ・フロー	△9,044	△8,100
<b>1株当たり情報 (※2015年7月1日実施の株式併合後の基準で表記)</b>		
1株当たり当期純利益 (EPS)	129.14円	63.94円
1株当たり配当金 (DPS)	35円	20円
1株当たり純資産額 (BPS)	927.63円	921.78円
<b>非財務データ</b>		
従業員	6,245人	6,021人
海外従業員比率	59.9%	59.0%

# 連結貸借対照表

(単位：百万円)

(単位：百万円)

	2015年度 2015年12月期	2016年度 2016年12月期
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	7,906	8,048
受取手形及び売掛金	31,263	30,741
商品及び製品	31,689	28,412
仕掛品	3,532	3,257
原材料及び貯蔵品	7,424	5,945
繰延税金資産	2,595	1,680
その他	2,945	2,378
貸倒引当金	△ 400	△ 399
流動資産合計	86,958	80,066
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	13,844	12,890
機械装置及び運搬具（純額）	3,036	2,755
工具、器具及び備品（純額）	1,047	967
土地	6,656	6,523
リース資産（純額）	342	325
建設仮勘定	97	49
有形固定資産合計	25,024	23,512
無形固定資産	1,797	1,711
投資その他の資産		
投資有価証券	3,009	3,018
長期貸付金	432	424
長期前払費用	353	306
繰延税金資産	202	1,021
退職給付に係る資産	982	874
その他	2,316	2,379
貸倒引当金	△ 1,795	△ 1,951
投資その他の資産合計	5,501	6,074
固定資産合計	32,323	31,298
資産合計	119,281	111,365

	2015年度 2015年12月期	2016年度 2016年12月期
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	10,126	9,972
短期借入金	46,870	43,144
リース債務	123	109
未払金	1,718	1,400
未払費用	3,473	3,297
未払法人税等	745	409
賞与引当金	60	15
設備関係支払手形	111	61
為替予約	—	1,811
その他	1,205	1,031
流動負債合計	64,436	61,254
固定負債		
長期借入金	20,101	16,647
リース債務	281	256
役員退職慰労引当金	171	69
退職給付に係る負債	5,084	5,163
その他	728	390
固定負債合計	26,367	22,528
負債合計	90,803	83,782
純資産の部		
株主資本		
資本金	18,044	18,044
資本剰余金	2,094	2,035
利益剰余金	7,800	8,937
自己株式	△ 66	△ 605
株主資本合計	27,873	28,412
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	817	839
為替換算調整勘定	△ 1,148	△ 2,274
退職給付に係る調整累計額	136	28
その他の包括利益累計額合計	△ 194	△ 1,406
非支配株主持分	799	576
純資産合計	28,477	27,582
負債純資産合計	119,281	111,365



# 財務データ

## 連結損益計算書

(単位：百万円)

	2015年度 2015年12月期	2016年度 2016年12月期
売上高	112,865	97,724
売上原価	78,293	68,134
売上総利益	34,571	29,590
販売費及び一般管理費	27,461	24,938
営業利益	7,110	4,651
営業外収益		
受取利息	127	64
受取配当金	147	131
受取手数料	193	261
その他	445	397
営業外収益合計	914	854
営業外費用		
支払利息	1,321	1,153
為替差損	819	1,185
その他	155	144
営業外費用合計	2,296	2,483
経常利益	5,728	3,022
特別利益		
固定資産売却益	50	441
その他	0	—
特別利益合計	51	441
特別損失		
固定資産除売却損	65	125
投資有価証券評価損	34	6
減損損失	32	105
関係会社株式評価損	—	55
特別退職金	—	80
その他	4	—
特別損失合計	137	373
税金等調整前当期純利益	5,642	3,090
法人税、住民税及び事業税	1,625	1,333
過年度法人税等	—	84
法人税等調整額	364	34
法人税等合計	1,989	1,453
当期純利益	3,652	1,637
非支配株主に帰属する当期純損失(△)	△ 200	△ 246
親会社株主に帰属する当期純利益	3,853	1,883

## 連結包括利益計算書

(単位：百万円)

	2015年度 2015年12月期	2016年度 2016年12月期
当期純利益	3,652	1,637
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	0	21
繰延ヘッジ損益	3	—
為替換算調整勘定	△ 471	△ 1,156
退職給付に係る調整額	88	△ 105
その他の包括利益合計	△ 379	△ 1,240
包括利益	3,273	396
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	3,495	671
非支配株主に係る包括利益	△ 221	△ 274

# 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	2015年度 2015年12月期	2016年度 2016年12月期
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	5,642	3,090
減価償却費	2,990	2,583
減損損失	32	105
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	137	174
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△ 7	△ 40
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	163	2
退職給付に係る資産の増減額 (△は増加)	△ 62	△ 8
受取利息及び受取配当金	△ 275	△ 195
支払利息	1,321	1,153
為替差損益 (△は益)	259	△ 238
有形及び無形固定資産除売却損益 (△は益)	15	△ 316
投資有価証券評価損益 (△は益)	34	—
関係会社株式評価損	—	55
売上債権の増減額 (△は増加)	△ 704	△ 581
たな卸資産の増減額 (△は増加)	6,631	3,067
仕入債務の増減額 (△は減少)	△ 3,605	128
割引手形の増減額 (△は減少)	117	△ 161
その他	△ 871	3,570
小計	11,820	12,388
利息及び配当金の受取額	274	195
利息の支払額	△ 1,331	△ 1,154
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△ 1,838	△ 1,611
営業活動によるキャッシュ・フロー	8,924	9,818
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形及び無形固定資産の取得による支出	△ 1,402	△ 1,727
有形及び無形固定資産の売却による収入	205	750
投資有価証券の取得による支出	△ 0	△ 153
貸付けによる支出	△ 8	—
貸付金の回収による収入	21	8
その他	△ 33	75
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,218	△ 1,046
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△ 3,866	△ 1,417
長期借入れによる収入	9,924	7,195
長期借入金の返済による支出	△ 13,210	△ 11,835
自己株式の取得による支出	△ 3	△ 539
配当金の支払額	△ 889	△ 743
セールアンド割賦バック取引による収入	57	—
セールアンド割賦バック債務返済による支出	△ 638	△ 526
その他	△ 418	△ 234
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 9,044	△ 8,100
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 275	△ 450
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△ 1,613	221
現金及び現金同等物の期首残高	9,285	7,671
現金及び現金同等物の期末残高	7,671	7,892



# 沿革

(2017年7月1日現在)

## 1938

### ●1938.12

東京都の機械業者約900名が出資し、「東京重機製造工業組合」として発足

## 1940

### ●1943.9

株式会社に改組し、「東京重機工業株式会社」と改称

### ●1947.4

#### 家庭用ミシン発売開始

戦後のJUKI再生事業として「ミシン」を選択しました。家庭用ミシン1号機の「HA-1」は約70%の部品を自製し、品質・性能に優れていたため、審査会において最高位の通産大臣賞を受賞しました。



## 1950

### ●1953.3

#### 工業用ミシン発売開始

JUKI独自の単軸回転天秤機構を搭載した工業用ミシン「DDW-II」を発売しました。



### ●1957.4

単軸回転天秤の発明が恩賜発明賞を受賞し、「技術のJUKI」の歴史が始まりました。

## 1960

### ●1961.10

東京証券取引所第二部上場

### ●1963.7

株式会社ジューキ広島製作所  
(現 JUKI広島株式会社)を設立

### ●1964.8

東京証券取引所ならびに大阪証券取引所  
第一部上場

### ●1966.7

株式会社中島製作所  
(現 JUKI松江株式会社)をグループ化

### ●1969.1

株式会社鈴民精密工業所をグループ化

### ●1969.2

#### 世界初、安定した「自動糸切り」を実現したミシンを開発

各社が開発を競う夢の技術「自動糸切り」機能を、世界で初めて安定した品質で製品に搭載したDDL-555-2型を発売。JUKIはこれをきっかけに業界で認められ、苦戦していた海外での販売に弾みがつき、世界シェアトップ企業への足がかりを作りました。



### ●1969.9

三瀬谷工業株式会社  
(現 JUKI金属株式会社)を設立

## 1970

### ●1970.7

#### JUKI(HONG KONG)LTD.を設立

工業用ミシン事業への参入から3年後の1956年より輸出を開始し、その2年後には香港に技術者を駐在させ、1970年に初の販売会社を香港に設立しました。続いて1972年にヨーロッパ(ドイツ)、1974年にアメリカに販売会社を設立し、よりお客様に近いところでのサービス体制を整えました。



### ●1971.4

#### 大田原工場竣工

工業用ミシンの生産が拡大し、本社工場(当時)だけでは限界となったため、一貫生産の工場を建設。行政の誘致や周辺の協力工場などの諸条件が合致した大田原市に工場を建設しました。現在、国内外12工場が稼働していますが、大田原工場はマザー工場として重要な役割を担っています。



### ●1972.4

JUKI(EUROPE)GMBHを設立

### ●1973.4

会津精密株式会社  
(現 JUKI会津株式会社)を設立

### ●1973.9

ジューキ電子工業株式会社  
(現 JUKI産機テクノロジー株式会社)を設立

### ●1973.11

株式会社吉野製作所  
(現 JUKI産機テクノロジー株式会社吉野工場)を設立

### ●1973.11

秋田精密株式会社  
(現 JUKI産機テクノロジー株式会社大仙工場)を設立

### ●1974.3

JUKI AMERICA, INC.を設立

## 1980

### ●1981.10

#### 工業用ミシン本部がデミング賞を受賞 (実施賞事業部賞)

製品のみならずサービスを含めたあらゆる仕事の質を向上させるための取り組みとしてTQC経営を導入。統計的手法を駆使する管理を徹底するため指導・教育を繰り返し、導入から5年後、厳しい審査の末、デミング賞を受賞しました。この取り組みは、生産・販売などのあらゆる活動に活かされています。



●1987.7

**チップマウンタ発売開始**

コンピュータや電化製品などあらゆる製品基板の生産が「表面実装」に変化する中、工業用マシンと電子機器の開発・生産で培ったメカトロニクスの技術を基にチップマウンタを開発し、産業装置事業に参入。大型高速機が主流だった業界に「モジュラーコンセプト」の概念を提唱し新風を巻き起こしました。



●1988.4

**JUKI株式会社に社名変更**

重機械メーカー的なイメージから脱皮し、製品ブランドとしてすでに認知されていた「JUKI」と一致させ、さらなるグローバル化をはかるため「東京重機工業(株)」から社名を変更。「JUKIロゴタイプ」を刷新し、コーポレートスローガン「Mind & Technology」を制定しました。



1990

●1990.6

上海重機マシン有限公司を設立

●1994.11

東京重機国際貿易(上海)有限公司を設立

●1995.1

**TAN THUAN PRECISION CO., LTD. (現 JUKI (VIETNAM) CO., LTD.) を設立**

部品の原価低減活動を目的にJUKIおよびJUKIグループ8社が合同で出資し部品製造会社を設立。当時、ベトナムへの工場進出は珍しく、日系企業としてはJUKIが初めてとなりました。現在は部品製造のほか、工業用マシンの開発や生産も担う、東南アジアの販売を支える重要な生産会社になりました。



●1995.3

JUKI SINGAPORE PTE. LTD. を設立

●1995.9

**新興重機工業有限公司を設立**

新興重機工業(有)を中国の国営企業と合併で設立。マザー工場である「大田原工場」の全面協力の下、日本製と変わらないJUKI品質の製品を生み出す工場へ。同年11月には「重機(寧波)精密機械(有)」を設立し、その後2000年に2つ目の生産工場となる重機(上海)工業(有)を中国に設立しました。



●1995.11

重機(寧波)服装設備工業有限公司(現 重機(寧波)精密機械有限公司)を設立

●1997.12

世界初の機構「下系自動供給装置」(工業用マシン)が機械振興協会賞を受賞

●1999.10

JUKI販売株式会社を設立

2000

●2000.10

重機(上海)工業有限公司を設立

●2000.10

JUKI MACHINERY (INDIA) PVT. LTD. (現 JUKI INDIA PVT. LTD.) を設立

●2001.1

重機(中国)投資有限公司を設立

●2001.10

JUKI AUTOMATION SYSTEMS INC. をグループ化

●2005.7

JUKI CENTRAL EUROPE SP. ZO. O を設立

●2006.10

JUKI SMT ASIA CO., LTD. を設立

●2009.12

**本社および研究開発機能を東京都多摩市の新社屋へ移転**

創業の地「調布市国領町」から、企業誘致により「多摩市鶴牧」に建設した新社屋へ本社・研究開発機能を移転。新社屋は地上8階、地下2階の建物に、音や振動、耐久性などの検査設備を備え、さらなる仕事の効率化や製品品質の向上が可能になりました。



2010

●2011.7

JUKI MACHINERY BANGLADESH LTD. を設立

●2012.5

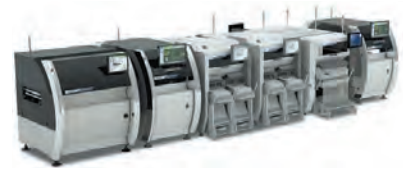
JUKI MACHINERY VIETNAM CO., LTD. を設立

●2013.8

JUKIオートメーションシステムズ株式会社を設立

●2014.3

JUKIオートメーションシステムズ株式会社とソニーイーエムシーエス株式会社の実装機器事業部門を統合しました。これによりJUKIが得意とする汎用機とソニーが持つ高速機・印刷機・検査機を組み合わせた製品が拡充し、ラインソリューション提案が可能になりました。

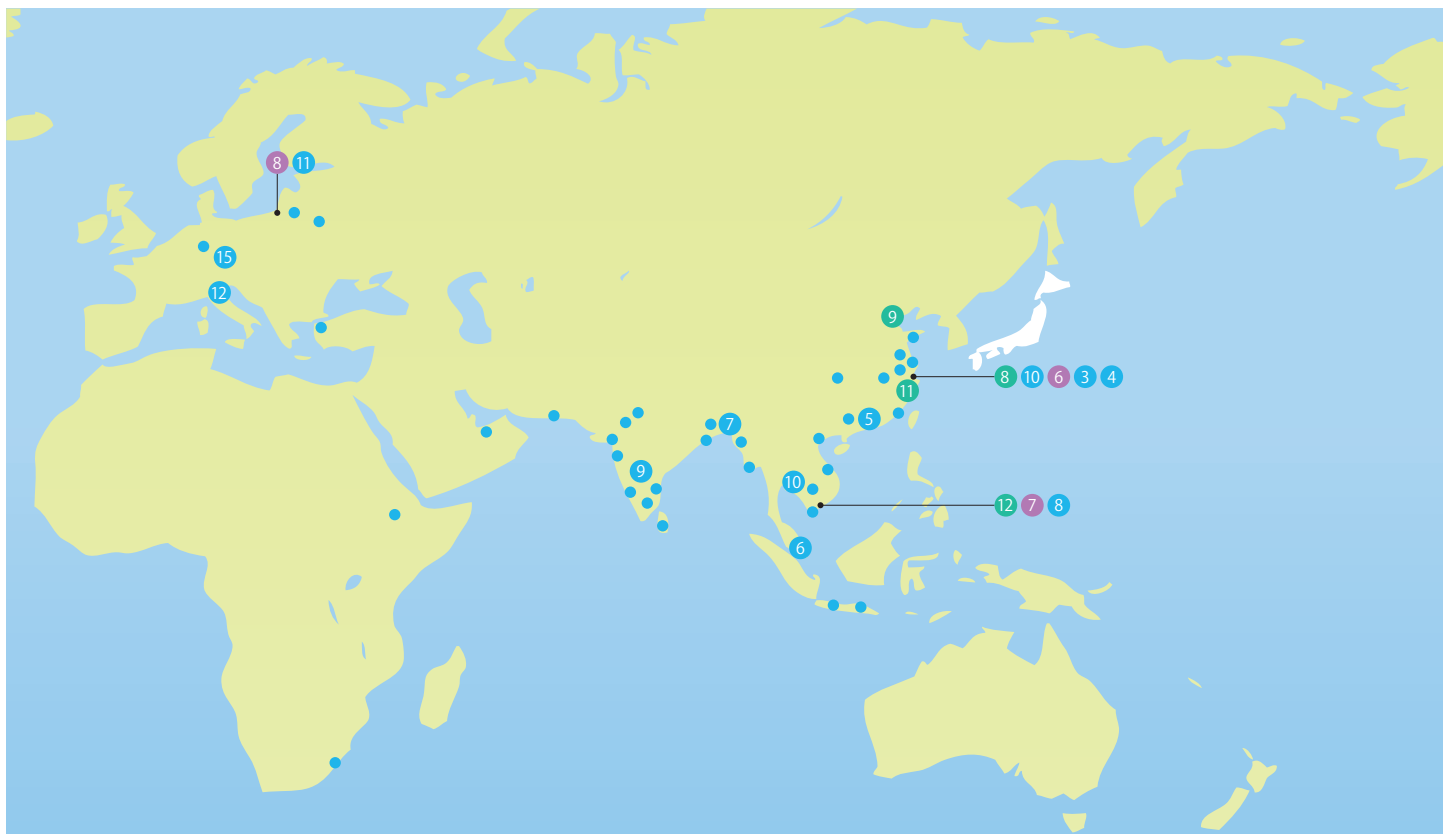


●2017.7

JUKI電子工業株式会社、JUKI秋田精密株式会社、JUKI吉野工業株式会社を統合し、JUKI産機テクノロジー株式会社を設立

# JUKIのグローバル拠点

(2017年7月1日現在)



1 4 1 2 1 2 JUKI (株)  
 JUKI オートメーションシステムズ(株)  
 JUKI 販売(株)  
 JUKI ゼネラルサービス(株)  
 JUKI 家庭製品お客様センター(株)  
4 3 JUKI (株)大田原工場  
1 2 JUKI 産機テクノロジー(株)  
7 5 JUKI 松江(株)  
8 6 重機(上海)工業(有)  
9 新興重機工業(有)

## 製造拠点

### 日本

① JUKI 産機テクノロジー(株)	秋田県横手市	チップマウンタ等の製造、グループ事業関連のユニット・部品製造
② JUKI 会津(株)	福島県喜多方市	ロストワックス・MIM 製法部品の製造
③ 株鈴民精密工業所	新潟県長岡市	グループ事業関連の部品製造
④ JUKI (株)大田原工場	栃木県大田原市	工業用ミシンの製造
⑤ JUKI 金属(株)	三重県大台町	グループ事業関連の部品製造
⑥ JUKI 広島(株)	広島県三次市	銃鉄铸件等の製造
⑦ JUKI 松江(株)	島根県松江市	グループ事業関連の部品製造
⑧ JUKI 松江(株)	島根県松江市	工業用ミシン等の製造
⑨ 新興重機工業(有)	中国・河北省	工業用ミシン等の製造

※ 2017年7月、JUKI電子工業(株)、JUKI秋田精密(株)、JUKI吉野工業(株)は統合し、JUKI産機テクノロジー(株)になりました。

### 海外

⑩ 上海重機ミシン(有)	中国・上海	家庭用ミシン等の製造
⑪ 重機(寧波)精密機械(有)	中国・浙江省	工業用ミシン部品等の製造、調達
⑫ JUKI ベトナム(株)	ベトナム・ホーチミン	工業用ミシン等の製造、ロストワックス部品の製造

⑩ 上海重機ミシン(有)	中国・上海	家庭用ミシン等の製造
⑪ 重機(寧波)精密機械(有)	中国・浙江省	工業用ミシン部品等の製造、調達
⑫ JUKI ベトナム(株)	ベトナム・ホーチミン	工業用ミシン等の製造、ロストワックス部品の製造

## 開発拠点

### 日本

① JUKI (株)	東京都多摩市	工業用ミシン、家庭用ミシン、チップマウンタ等の製品開発、システム開発
② JUKI 産機テクノロジー(株)	秋田県横手市	チップマウンタ、電子機器等の開発、グループ事業関連の開発
③ JUKI (株)大田原工場	栃木県大田原市	工業用ミシンの開発
④ JUKI オートメーションシステムズ(株)	東京都多摩市	チップマウンタ等の開発
⑤ JUKI 松江(株)	島根県松江市	工業用ミシンの開発

### 海外

⑥ 重機(上海)工業(有)	中国・上海	工業用ミシンの開発
⑦ JUKI ベトナム(株)	ベトナム・ホーチミン	工業用ミシンの開発
⑧ JUKI セントラルヨーロッパ(株)	ポーランド・ワルシャワ	工業用ミシンの開発
⑨ JUKI アメリカ(株)	アメリカ・フロリダ	工業用ミシンの開発





# GLOBAL



# JAPAN



10 上海重機ミシン(有)      12 7 JUKI ベトナム株      3 4 重機(中国)投資(有)      6 JUKI シンガポール株  
 8 11 JUKI セントラルヨーロッパ株      9 13 JUKI アメリカ株      14 JUKI オートメーションシステムズINC

## 販売拠点

### 日本

- 1 JUKI オートメーションシステムズ株 東京都多摩市      チップマウンタ等の販売
- 2 JUKI 販売株      東京都多摩市      工業用ミシン、家庭用ミシン等の販売
- 支店/営業所/サービスセンター 等

### 海外

- 3 重機(中国)投資(有)      中国・上海      工業用ミシン、家庭用ミシン等の販売  
持株会社・中国拠点統括
- 4 東京重機国際貿易(上海)有      中国・上海      チップマウンタ等の販売
- 5 JUKI 香港株      中国・香港      工業用ミシン等の販売
- 6 JUKI シンガポール株      シンガポール・サイバーハブ      工業用ミシン、家庭用ミシン等の販売  
(主要拠点：インドネシア、カンボジア、ミャンマー他8カ国)
- 7 JUKI マシナリーバングラデシュ株      バングラデシュ・ダッカ      工業用ミシン等の販売
- 8 JUKI マシナリーベトナム株      ベトナム・ホーチミン      工業用ミシン、家庭用ミシン等の販売
- 9 JUKI インディア株      インド・バンガロール      工業用ミシン、チップマウンタ等の販売
- 10 JUKI SMT アジア株      タイ・チョンブリ      チップマウンタ等の販売
- 11 JUKI セントラルヨーロッパ株      ポーランド・ワルシャワ      工業用ミシン、家庭用ミシン等の販売  
(その他拠点：トルコ、ロシア、ペラルーシ)
- 12 JUKI イタリア株      イタリア・ミラノ      工業用ミシン、家庭用ミシン等の販売
- 13 JUKI アメリカ株      アメリカ・フロリダ      工業用ミシン、家庭用ミシン等の販売  
(その他拠点：ペルー、メキシコ)

- 14 JUKI オートメーションシステムズINC      アメリカ・ノースカロライナ      チップマウンタ等の販売
- 15 JUKI オートメーションシステムズGMBH      ドイツ・ニュルンベルク      チップマウンタ等の販売
- 支店/駐在員事務所/サービスセンター 等

## その他拠点

### 日本

- 1 JUKI ゼネラルサービス株      東京都多摩市      ビル管理・リフォーム・印刷他サービス
- 2 JUKI 家庭製品お客様センター株      東京都多摩市      家庭用ミシンのサービス対応

## 主要拠点数

	日本	海外	合計
● 製造	7	5	12
● 開発	5	4	9
● 販売	2	13	15
● その他	2	0	2

データセクション

# 会社概要および株式情報

(2016年12月31日現在)

## 会社データ

商号	JUKI株式会社
創立	1938年12月15日
代表者	代表取締役社長 清原 晃
資本金	180億4,471万円
主要事業所	本社： 〒206-8551 東京都多摩市鶴牧2-11-1 Tel 042-357-2211 大田原工場： 〒324-0011 栃木県大田原氏北金丸1863 Tel 0287-23-5111
決算期	12月31日
定時株主総会	3月
従業員	6,021名(連結)、846名(単体)
連結子会社	30社

## 企業理念

### 企業理念

1. JUKIは、ここに集い、人々のしあわせを実現し、社会に貢献する
1. JUKIは、技術を創造し、進化させ、新しい価値を生み出す

### 経営基本方針

1. 総合品質経営を推進する
1. イノベティブ(革新的)で活気のある人と組織をつくる
1. 国際社会に適合する経営を行う

### コーポレートスローガン

Mind & Technology

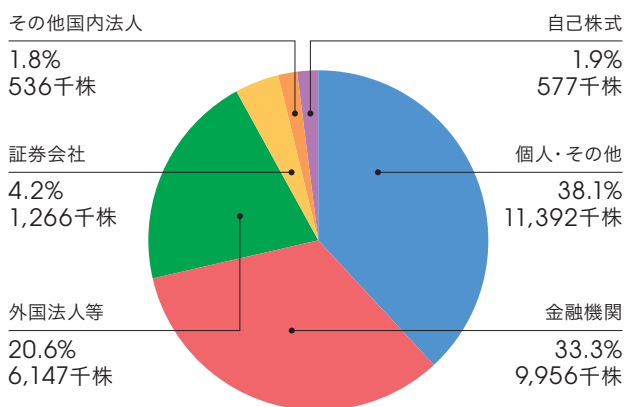
## 編集方針

JUKIコーポレートレポート2017は、会社案内と環境報告書の要素を中心に1冊に統合した報告書です。今回発行するレポートでは、当社グループの事業や価値創造について、お客様や株主・投資家をはじめステークホルダーの皆様にご理解いただくため、内容を拡充してお届けします。

## 株式の状況

発行可能株式総数	80,000,000株
発行済株式総数	29,874,179株
株主数	13,395名
上場証券取引所	東京証券取引所 第一部(貸借銘柄)
証券コード	6440
株主名簿管理人	みずほ信託銀行株式会社

## 所有者別株式分布状況



## 見直しに関する注意事項

本レポートに記載されている、JUKI株式会社および連結子会社の計画、目標、戦略などは、編集時点における見直しであり、これらは、入手可能な情報から得られた当社の判断に基づいています。従って、これらの業績見直しは、将来の業績を保証するものではなく、さまざまな重要な要素により、大きく異なる結果になることがあります。

***Mind & Technology***





**JUKI**

JUKI株式会社  
〒206-8551 東京都多摩市鶴牧2-11-1  
TEL 042-357-2211  
<http://www.juki.co.jp>